

市立芦屋病院新改革プラン

(平成29年度～平成32年度)

第2版

平成30年7月

目 次

市立芦屋病院新改革プラン

はじめに	1
I 当院の目指すべき方向	2
1 病院概要	2
2 芦屋市を取り巻く環境	2
3 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	5
4 経営の効率化	7
5 再編・ネットワーク化	8
6 経営形態の見直し	8
II 市民に提供する診療機能の向上に向けての取組	8
1 診療事業	9
2 臨床研究事業	15
3 教育研修事業	16
III 業務運営効率化への取組	17
1 効率的な業務運営体制	17
2 業務運営の見直しや効率化による収支改善	19
IV 収支計画及び資金計画	22
1 経営の改善	22
2 収支計画の策定	22
3 医療機器・建物整備に関する計画	23
4 債務の償還	23
V その他業務運営に関する取組	23
1 広報に関する事項	23
2 病院機能評価	23

資料

1	市立芦屋病院収支計画	25
2	市立芦屋病院医療機器整備計画	32
3	市立芦屋病院施設整備計画	35
4	市立芦屋病院新改革プラン進捗状況	36
5	平成29年度の主な取組	40
6	収支状況	47
7	施設基準届出一覧	48
8	各種委員会活動状況	51
9	講座等活動実績	67
10	研究発表・論文等	71
11	実習受入実績	93

新改革プラン（第2版）について**※計画変更箇所**

計画本文のアンダーライン部分が昨年度からの変更箇所
(数値目標の変更については、アンダーライン部分が変更後の数値、下段の数値は当初目標値)

※計画変更理由

- ① 市立芦屋病院収支計画見直しによる変更
- ② 標榜科追加に伴う診療科目の変更
- ③ 阪神南圏域に所在する主たる病院群の病床数の変更

はじめに

市立芦屋病院は、総務省から示された公立病院改革ガイドラインに基づき、平成 21 年度から 5 年間の「市立芦屋病院改革プラン」を策定し、平成 21 年 4 月には経営形態を地方公営企業法の全部適用にし、病棟新築をはじめとする病院施設の全面リニューアルや診療機能の充実などの経営改革に取り組んでまいりました。

改革プラン終了後の平成 26 年度からは、引き続き病院事業の経営改革を進めるため、「市立芦屋病院中期経営計画」を策定し、新築病院施設の有効活用とより一層の診療機能の充実を図ってきました。しかしながら、慢性的な医師不足の問題や医療機能の分化・推進による急性期病床の削減など、医療を取り巻く厳しい社会環境のなか、平成 27 年度の経常収支では 3 億 7 千万円の純損失となり、さらなる経営改革と収支改善が求められています。

平成 27 年 3 月には総務省から新たな公立病院改革ガイドラインが示され、平成 28 年度までに新公立病院改革プランを策定し、病院機能の見直しや病院事業経営の改革に総合的に取り組むよう要請されています。

新公立病院改革プランの内容は、前ガイドラインで示された「経営の効率化」「再編・ネットワーク化」「経営形態の見直し」の 3 つの視点に加え、都道府県が策定する地域医療構想を踏まえて公立病院として果たすべき役割を明確にした上で、さらなる改革を推進する取組を示す必要があります。

平成 28 年 10 月に策定された兵庫県地域医療構想では、団塊の世代がすべて後期高齢者となる 2025 年（平成 37 年）に向け、「住民が、住み慣れた地域で生活しながら、状態に応じた適切で必要な医療を受けられる」地域医療の提供体制（＝「地域完結型医療」）の構築を目的とし、①医療機能の分化・連携、②在宅医療の充実、それを支える③医療従事者の確保が重点施策として掲げられています。

当院は、地域の公立病院として、これからの超高齢社会を見据え、患者の生活の質（QOL）の維持・向上を目標に、患者にとって最適な医療の提供に努めてまいりました。また、兵庫県地域医療構想において示されているとおり、地域完結型医療を支えるため、公立病院の果たすべき役割は今後さらに増していくものと考えております。

以上のことから、当院では、平成 29 年度からの「市立芦屋病院新改革プラン」（以下「新改革プラン」という。）を策定し、今後の地域における当院の目指す姿を示すとともに、本市の中核病院として質の高い医療を安定的に提供できるよう、これまで以上に経営改革と収支改善を図ってまいります。

I 当院の目指すべき方向

1 病院概要

名 称	市立芦屋病院
所 在 地	芦屋市朝日ヶ丘町 39 番 1 号
開 設 者	芦屋市長
開設年月日	昭和 27 年 7 月 12 日
許可病床数	199 床（一般病棟 175 床，緩和ケア病棟 24 床）
診療科目	内科 血液・腫瘍内科 消化器内科 糖尿病・内分泌内科 循環器内科 呼吸器内科 緩和ケア内科 <u>神経内科</u> 外科 消化器外科 乳腺外科 肛門外科 整形外科 産婦人科 小児科 眼科 耳鼻いんこう科 皮膚科 形成外科 放射線科 麻酔科 ペインクリニック内科 リハビリテーション科 以上 23 診療科，院内標榜を除く。
運 営 形 態	地方公営企業法の全部適用（平成 21 年 4 月 1 日～）

2 芦屋市を取り巻く環境

(1) 人口動態

芦屋市の人口推計では，2025 年（平成 37 年）には団塊世代が 75 歳以上を迎えるため，75 歳以上の人口が 2015 年から 2025 年の間に 12,527 人が 18,354 人に増加すると推計される。又，65 歳以上の人口においても，25,987 人が 29,792 人に増加することが推計されている。

【芦屋市将来推計人口】

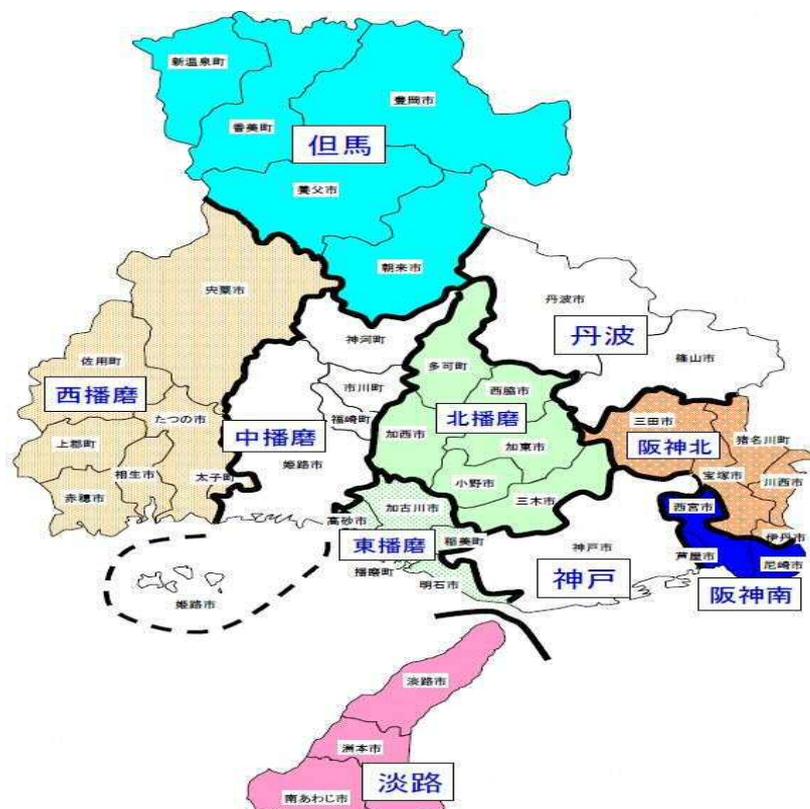
項目	2015 年	2025 年
総人口	94,851 人	96,051 人
65 歳以上	25,987 人	29,792 人
65 歳以上の割合	27.4% (県全体 27.1%)	31.0% (県全体 30.4%)
75 歳以上	12,527 人	18,354 人
75 歳以上の割合	13.2% (県全体 12.8%)	19.1% (県全体 18.3%)

出典：芦屋市将来人口推計報告書（平成 27 年 3 月）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成 25 年 3 月推計）

(2) 二次医療圏

兵庫県は、10の二次医療圏に分かれており、当院は芦屋市、西宮市及び尼崎市で構成される阪神南圏域に位置している。



○圏域の現況

(H26.10.1 現在)

圏域	構成市町	人口(人)	面積(k㎡)
神戸	神戸市	1,537,864	557.02
阪神南	尼崎市, 西宮市, 芦屋市	1,029,517	169.15
阪神北	伊丹市, 宝塚市, 川西市, 三田市, 猪名川町	726,539	480.89
東播磨	明石市, 加古川市, 高砂市, 稲美町, 播磨町	714,587	266.40
北播磨	西脇市, 三木市, 小野市, 加西市, 加東市, 多可町	275,971	895.61
中播磨	姫路市, 福崎町, 市川町, 神河町	578,624	865.02
西播磨	相生市, たつの市, 赤穂市, 宍粟市, 太子町, 上郡町, 佐用町	263,148	1,566.98
但馬	豊岡市, 養父市, 朝来市, 香美町, 新温泉町	171,295	2,133.30
丹波	篠山市, 丹波市	106,812	870.80
淡路	洲本市, 南あわじ市, 淡路市	136,848	595.74
兵庫県		5,541,205	8,400.90

出典：「兵庫のすがた2015」

【参考】

阪神南圏域に所在する主たる病院群の現状は以下のとおりである。

・兵庫医科大学病院	963 床
・関西労災病院	642 床
・兵庫県立尼崎総合医療センター	730 床
・兵庫県立西宮病院	400 床
・西宮市立中央病院	257 床
・市立芦屋病院	199 床
・笹生病院	<u>195 床</u>

(3) 地域医療構想¹

地域医療構想は、医療分野での医療機能の分化・連携により、患者の状態に応じた適切な医療を提供する体制を整備するとともに、在宅医療の充実等により、退院患者の生活を支える体制の構築を目指すものである。阪神南圏域においては、2025年（平成37年）の医療需要に基づく必要病床機能では、高度急性期病床58床及び回復期病床2,254床の不足、急性期病床1,259床及び慢性期病床663床の過剰が見込まれており、病床総計では、390床の不足となっている。また、5疾病においては、2025年（平成37年）に大きく増加する、がん、循環器系疾患（特に脳梗塞）及び精神疾患（特に認知症）の対策が急務とされている。

なお、地域医療構想は、兵庫県保健医療計画（平成25年4月1日）²の一部として策定されたものであり、地域医療構想に記載がない事項であっても、同計画を踏まえる必要がある。

【2025年（平成37年）の必要病床数推計結果】

2025年(H37)推計		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	病床総計
阪神南 圏域	H37必要病床数	1,279	3,468	2,859	1,664	9,270
	H26病床機能報告	1,221	4,727	605	2,327	8,880
	差引	△58	1,259	△2,254	663	△390
兵庫県 全体	H37必要病床数	5,901	18,257	16,532	11,765	52,455
	H26病床機能報告	5,053	28,747	4,506	14,811	53,117
	差引	△848	10,490	△12,026	3,046	662

¹ 各圏域において協議の場を設け、国・県・市町の取組の推進と医療機関等の自主的な取組の促進により、「住民が、住み慣れた地域で生活しながら、状態に応じた適切に必要な医療を受けられる」地域医療の提供体制（＝「地域完結型医療」）の整備することを目的としたもの。

² 医療法第30条の4に基づき、都道府県が策定する医療計画であると同時に、県民、市町、保健・医療機関、関係団体の参画と協働のもと、それぞれが取り組むべき保健・医療分野の基本的指針（ガイドライン）としての性格を持つ。

3 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

(1) 地域医療構想を踏まえた当院の果たすべき役割

当院は基本理念である、芦屋市の中核病院として地域社会に貢献し、患者の意思を尊重し、最善の医療と癒しを提供しており、市民の健康保持に必要な医療を提供する市内の中核病院として、地域の診療所等との役割分担と連携により、救急医療を含め診療体制の充実を図っている。

地域医療構想では、阪神南圏域は急性期病床が過剰とみられており、今後、削減の議論が進められることが予想される。当院としては、平成22年1月に先行して急性期病床272床から199床（うち急性期病床175床、緩和病床24床）に病床の縮小を実施している。今後とも芦屋市の中核病院として、診療機能を適切に提供していくためには、現行の病床規模・機能は必要と考えているが、現在、医療圏内において検討が進められている他の公立病院の再編状況を見極めるとともに、地域医療構想を踏まえた当院の担うべき役割を十分に検討していく。併せて、今後の急性期、回復期及び慢性期の医療需要の動向並びに診療報酬制度の改定状況を注視していく。

(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

団塊世代が75歳以上となる2025年（平成37年）を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現が必要とされている。また、認知症高齢者の増加が見込まれることから、地域での生活を支えるためにも重要と考えられる。

当院では、医師会、歯科医師会、薬剤師会及び芦屋市福祉部等の行政の代表者により構成される「在宅医療推進協議会」に参加し、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築に向けて取組を進めている。特に切れ目のない在宅医療、介護連携体制を構築するためには患者急変時の受入れ医療機関の確保は重要であり、地域の後方支援病院としての役割を十分に果たせるよう体制を整備する。また、在宅復帰促進に向けては、地域連携室に退院支援に関わる看護師を配置し、住み慣れた地域に安心して戻れるよう医療機関・介護施設等との連携強化を含め取組を進めていく。今後増加が見込まれる認知症患者については、芦屋市認知症初期集中支援チーム³との積極的な連携、認知症看護認定看護師の配置など、様々な角度から地域包括ケアシステムの構築へ向けて積極的に関与していく。

³ 認知症サポート医、看護師、高齢者生活支援センター職員により編成されたチームが、認知症やその疑いのある方、家族に対して訪問等による支援を概ね6ヶ月以内の期間に集中的・包括的に行い、在宅での自立生活のサポートを行う。

(3) 一般会計負担の考え方

地方公営企業法に基づく基準内繰入を原則として、以下のとおりの繰入を行うとともに、保健・福祉との連携経費など、社会情勢の変化に伴って生じる新たな出資等については別途協議とする。

① 医業収益

(基準内繰入)

- ・ 救急医療の確保に要する経費（救急受入体制の構築に伴う経費）
- ・ 保健衛生行政事務に要する経費

② 医業外収益

(基準内繰入)

- ・ 病院事業債利息の 1/2（平成 14 年度以前分は 2/3）
- ・ リハビリテーションに要する経費（収入を除いた額）
- ・ 小児医療に要する経費（収入を除いた額）
- ・ 高度医療に要する経費（収入を除いた額）
- ・ 院内保育に要する経費（収入を除いた額）
- ・ 医師及び看護師の研究研修に要する経費の 1/2
- ・ 共済追加費用の負担に要する経費
- ・ 医師の勤務環境の改善に要する経費
- ・ 医師の派遣を受けることに要する経費
- ・ 基礎年金拠出金に係る公的負担に要する経費
- ・ 児童手当の給付に要する経費

(別途協議)

- ・ 医療・福祉ネットワークバスの運行に要する経費（予め協議において按分した額）

③ 出資金

(基準内繰入)

- ・ 病院事業債元利償還の 1/2（平成 14 年度以前分は 2/3）
- ・ 病院建設改良に要する経費 1/2

【一般会計繰入金】

(単位：千円)

項目	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度
	実績	予定	予定	予定	予定	予定
①医業収益	251,485	258,167	255,986	<u>260,826</u>	<u>269,610</u>	<u>269,610</u>
				255,986	255,986	255,986
②医業外収益	244,845	311,247	281,173	<u>287,273</u>	<u>310,142</u>	<u>309,165</u>
				278,004	275,201	273,771

③出資金	181,852	196,275	187,032	<u>167,448</u>	<u>133,358</u>	<u>207,028</u>
				168,310	170,621	231,101
合 計	678,182	765,689	724,191	<u>715,547</u>	<u>713,110</u>	<u>785,803</u>
				702,300	701,808	760,858

(4) 市民の理解

市立芦屋病院新改革プラン策定委員会に市民公募による委員を加え、市民の意見の反映に努める。新改革プランの進捗については、芦屋市議会に報告するとともにホームページに公開するなど、市民への情報提供を積極的に行っていく。

4 経営の効率化

(1) 経営指標に係る数値目標の設定

項目	単 位	27 年度 実績	28 年度 目標	29 年度 目標	30 年度 目標	31 年度 目標	32 年度 目標
① 経常収支比率(※)	%	93.0	91.9	92.9	<u>94.9</u> 95.2	<u>99.3</u> 99.4	<u>102.1</u> 101.4
② 医業収支比率(※)	%	90.3	87.1	88.6	<u>90.6</u> 91.1	<u>94.7</u> 95.4	97.7
③ 入院単価	円	45,092	44,884	46,000	49,000	51,000	53,000
④ 外来単価	円	12,219	12,374	12,500	12,700	12,900	13,100
⑤ 病床利用率(※)	%	78.3	81.9	82.2	83.2	85.1	87.9
⑥ 病床稼働率(※)	%	83.8	87.6	87.9	89.0	91.0	94.0
⑦ 1日入院患者数	人	166.8	174.3	175.0	177.1	181.1	187.1
⑧ 1日外来患者数	人	340.8	339.4	350.0	350.0	350.0	350.0
⑨ 人件費比率	%	62.7	64.4	63.9	<u>64.3</u> 62.8	<u>62.0</u> 60.5	<u>59.7</u> 59.1
⑩ 材料費比率	%	17.6	19.4	18.6	<u>18.4</u> 18.6	<u>18.5</u> 18.6	<u>18.6</u> 18.7
⑪ 医師数	人	31	31	34	35	37	40
⑫ 看護師数	人	158	151	150	155	155	155

※経常収支比率：((医業収益+医業外収益) / (医業費用+医業外費用)) ×100

※医業収支比率：(医業収益/医業費用) ×100

※病床利用率：24時現在病院に在院中の延患者数を年間病床数で除した率

※病床稼働率：24時現在病院に在院中の延患者数に退院患者数を加えた数を年間病床数で除した数

(2) 経常収支比率に係る目標設定の考え方

医師をはじめとする医療体制の充実を進め、平成24年度に更新築した病棟などの経営資源を最大限に活用し、救急患者の受入れや新規紹介患者の増加による病床稼働率の向上、外科系医療の拡充など医療機能充実に伴う診療単価の増加などによる収益増を図り、平成32年度における経常収支の黒字化を目指す。

5 再編・ネットワーク化

圏域の西部に位置する県立西宮病院、西宮市立中央病院との連携強化を目的に、救急医療、周産期医療、診療科の相互補完、研修等において「ネットワーク化協議」を継続する。特に周産期ネットワークについては広報強化による利用推進を図る。また、診療科の相互補完においては、当院は日本産科婦人科内視鏡学会の認定施設であるため、医師の研修受入れなどによる人的交流を進め、3病院の機能・特色を生かし、患者が住み慣れた地域において良質な医療を受けられるように、より一層の連携強化に努める。

また、阪神南北圏域(阪神7市1町)を対象とする阪神医療福祉ネットワーク「h-Anshinむこねっと」⁴に参加し、二次救急システム、医療機関機能情報システム、患者情報共有システム等のIT化されたネットワークを活用し、逆紹介の推進及び各種連携パスへの参加など地域医療の効率化を目指す。なお、当院は神戸圏域とも隣接しており、この地域の医療機関との連携にあたっては当院独自のITネットワークである「芦っこメディカルリンク」⁵を活用し、患者の診療情報を共有するなど連携強化を図る。

6 経営形態の見直し

当院は、平成21年4月からの地方公営企業法の全部適用を受けて、病院事業管理者を設置することにより、病院事業の独自性、医療情勢の変化への即応性を確立しつつあることからこの形態を当面は維持する。

地方独立行政法人や指定管理者制度等を用いた他の形態への変更に関しては、調査・研究を進めながら必要性がさらに認められる時点において検討を加えることとする。

II 市民に提供する診療機能の向上に向けての取組

当院は、公衆衛生の向上に寄与すること及び市民の健康に影響のある疾病に関する医療とともに地域の中で信頼される医療の提供、調査研究及び医療従事者の育成を実施する。

⁴ 患者の同意のもとに、各医療機関に保管されている医療情報を高度に暗号化してインターネットで結び、医療機関相互で共有することにより、診療に役立てるための仕組み。また、消防などの行政機関と医療機関が救急医療情報を共有し、円滑な救急医療体制の構築・運営を行う仕組み。ICTを活用して複数の医療機関を接続し、診療情報を共有して地域全体で医療に取り組むシステム

⁵ 患者の同意のもとに、当院に保管されている医療情報を高度に暗号化してインターネットで結び、地域の診療所等のPCで閲覧を可能にするシステム。当院独自のシステムであり、神戸市や県外等の医療機関との連携にも利用可能

1 診療事業

利用者である市民に満足される安心で質の高い医療を提供することを主たる目標とする。

(1) 患者の目線に立った医療の提供

① 分かりやすい説明と相談しやすい環境づくり

患者が医療内容を適切に理解し、患者の意思を尊重した治療の選択が可能のように、診療ガイドラインの活用や複数職種の同席による説明などに努め、相談しやすい体制づくりに取り組む。

② 患者の価値観の尊重

患者満足度調査を定期的実施し、その結果を踏まえて患者の利便性に配慮した診療時間の設定や待ち時間を短縮する取組、入院環境（アメニティ）などサービスの向上を図る。

【患者満足度】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
		実績	目標	目標	目標	目標	目標
外来	%	96.0	97.0	98.0	98.0	98.0	98.0
入院	%	95.0	97.0	98.0	98.0	98.0	98.0

※ 満足及びやや満足の合計による。

(2) 安心・安全な医療の提供

① 医療倫理の確立

患者との信頼関係を醸成することが重要であり、カルテ開示など適切な情報開示に取り組むとともに、患者のプライバシーの保護に努める。

倫理委員会の組織・運営を適正に行い、倫理的事項について医療従事者に対する助言体制を整備する。

② 医療安全対策の充実

リスクマネージャーを中心に非日常（ヒヤリハット事例）報告の適正な分析等のリスク管理を推進するとともに、他病院との情報交換を実施するなど安全対策の標準化に取り組む。特に院内感染対策については、感染対策の専門的知識を持った医師、看護師、薬剤師及び検査技師が協力して感染制御チーム（ICT）⁶を結成し、院内の感染対策の推進に努めている。また、地域の連携医療機関と相互に訪問し、感染対策の評価を実施するなど院内サーベイランス⁷の充実に取り組む。

⁶ 病院などの医療施設で、建物内の感染症に関する予防、教育、医薬品などの管理を担当する専門チーム

⁷ 感染症の発生状況を正確かつ継続的に調査・把握することにより感染症の予防に役立てるシステム

医療安全対策の充実に貢献する観点から、医療事故や医薬品等安全情報の報告を徹底する。平成 27 年 10 月に始まった医療事故調査制度⁸を受け、病院長をトップとした幹部職員の会議において、全ての死亡症例を検討するなど、リスク管理の徹底を進める。

(3) 質の高い医療の提供

① クリティカルパス⁹の活用

チーム医療の推進，患者に判りやすい医療の提供や医療の標準化のため，クリティカルパスの活用を推進し，入院患者に対する適用率を 50%以上にする。

【クリティカルパス適用率】

項目	単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度
		実績	目標	目標	目標	目標	目標
クリティカルパス	%	40.3	42.0	44.0	46.0	48.0	50.0

② EBM¹⁰の推進

エビデンスに基づいた医療（Evidence Based Medicine）を実践するため，臨床研究により得られた成果を臨床に反映させるとともに臨床評価指標の充実に努める。診療情報データベースを確立し，利用を促進する。

③ 患者の QOL¹¹の向上

快適な療養環境の提供や，接遇・コミュニケーションの質向上などの改善に取り組み，患者満足度調査における QOL に関する項目の評価の向上に努める。

④ 職種間の協働，チーム医療の推進

チーム医療の推進に必要な多種多様な医療スタッフが，その高い専門性を連携・補完し合い，職種間の協働と役割分担された業務を実施することにより，質の高い医療を効率的に提供する。

⑤ 超高齢社会への対応

高齢者に多くみられる疾患（がん，骨そしょう症，肺炎，認知症，循環器疾患等）に対する診療内容の充実に努めるとともに在宅医療について研究する。

各種老健施設及び地域の在宅医療を担う開業医の後方支援病院として連携強化を

⁸ 医療の安全を確保するために，医療事故の再発防止を行うことが目的。医療事故が発生した場合，医療機関は，遺族への説明，医療事故調査・支援センターへの報告，原因を明らかにするための調査の実施，調査結果の遺族への説明及びセンターへの報告を行う。

⁹ 入院中に行われる検査・処置・看護・食事などを入院から退院までの時間順にまとめた診療計画表

¹⁰ 医学の分野では，ある治療法がある病気・怪我・症状に対して，効果があることを示す証拠や検証結果・臨床結果を指す。医療行為において治療法を選択する際「確率的な情報」として，患者にとって安全で効果のある治療方法を選ぶ際に指針として利用される。

¹¹ 物理的な豊かさやサービスの量，個々の身辺自立だけでなく，精神面を含めた生活全体の豊かさと自己実現を含めた概念

図り、在宅患者の救急受入れを積極的に行っていく。

(4) 病院に期待される機能の発揮

① 地域医療への貢献

1) 紹介率・逆紹介率向上への取組

地域において必要とされる医療を的確に実施するため、地域連携クリティカルパス実施件数の増加や紹介率・逆紹介率の向上など地域医療機関との連携強化を図るとともに、地域医療の向上に積極的に取り組む。紹介率、逆紹介率については、地域医療支援病院¹²の承認基準である紹介率 50%、逆紹介率 70%を目標とする。

【紹介率・逆紹介率】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
		実績	目標	目標	目標	目標	目標
紹介率	%	40.4	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
逆紹介率	%	63.9	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0

2) 在宅復帰への取組

地域包括ケアシステムでは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される必要があり、当院が担う「医療」においては、患者が早期に在宅へ復帰できる仕組みが重要となる。地域のかかりつけ医、連携病院、介護老健施設及び地域包括支援センター等と連携強化を進めるとともに、入院患者の生活状況等を早期に把握するため、地域連携室に退院支援に精通した看護師、社会福祉士を配置し、患者一人一人に最適な在宅ケアが提供できるよう取組を行っていく。特に認知症高齢者の増加が見込まれるため、地域包括ケアシステム構築に向け、積極的に役割を担っていく。

【在宅復帰率】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
		実績	目標	目標	目標	目標	目標
在宅復帰率	%	89.1	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0

※在宅復帰率：7対1入院基本料算定要件の一つ。直近6ヶ月間に7対1入院基本料を算定する病棟から退院した患者のうち、自宅、回復期病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟、介護老健施設、居住系介護施設等へ退院した患者数

¹² かかりつけ医、かかりつけ歯科医を支援し、二次医療圏単位で地域医療の充実を図る病院として、医療法第4条の規定に基づき都道府県知事が地域医療支援病院として承認した病院

の割合が 80%以上必要

② 兵庫県保健医療計画における 5 事業（救急・災害・へき地・周産期・小児）への取組

1) 救急医療

引き続き内科二次救急体制を 24 時間 365 日堅持し、小児救急体制、外科系救急体制及び消化器内視鏡救急体制の拡充を図る。特に外科系救急においては、外科の体制の整備を行い、救急受入日の拡充等を進め、最終的には 24 時間 365 日の実施を目指す。また、救急車搬送において、市外へ流出している救急患者を当院にて受け入れていくことにより、市民が安心して住める救急医療の一翼を担い、地域の中核病院としての役割を果たす。

【救急件数】

項目	単	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度
	位	実績	目標	目標	目標	目標	目標
救急受入患者数	件	3,943	4,100	4,300	4,400	4,500	4,700
内救急車搬送	件	1,225	1,250	1,350	1,400	1,450	1,500
内救急入院数	件	1,269	1,300	1,350	1,400	1,450	1,500

2) 周産期医療¹³

県立西宮病院等の連携医療機関とのネットワークを強化するとともに、地域のニーズに対応して周産期医療体制の整備を図る。また、ネットワークのシステムについて、積極的に市民等に広報を行うことにより、利用者の増加に努める。

3) 災害時の医療体制

災害時の医療では、病院自体も被災して病院としての機能が制限されることやマンパワーの不足が予想される。このため、市災害対策本部との連携のもと芦屋市医師会と協働して負傷者等の救急対応を行う。

また、県下の自治体病院が相互応援体制の協定を締結しており、災害が発生した直後に被災した病院が独自に十分な医療活動ができない場合に、その外の病院が相互扶助精神に基づき、速やかに応援協力することとなっている。今後とも周辺自治体病院との連携のもとに地域住民が安心できる医療の提供に努めていく。

4) 小児（救急）医療

芦屋市内唯一の小児入院医療機関として、小児救急を含めた地域の小児科医療を支援していくとともに、腎臓疾患の診療及び学習支援外来などの特色ある外来診療

¹³ 周産期とは、妊娠 22 週から生後満 7 日未満までの期間をいい、周産期を含めた前後の期間における医療は、突発的な緊急事態に備えて産科・小児科双方からの一貫した総合的な体制が必要とされている。

にも引き続き取り組んでいく。

③ 兵庫県保健医療計画における5疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患）への取組

1) がん対策の強化

- ・がん検診・人間ドックの充実
- ・がん予防診療（ピロリ菌外来・肝炎ウイルス対策）
- ・低侵襲手術（上部・下部消化管内視鏡下手術，腹腔鏡下手術，胸腔鏡下手術）の拡充
- ・外来・入院化学療法
- ・がん緩和ケア（緩和ケアチーム¹⁴介入・緩和ケア病棟）
- ・がんに関する知識の啓発
- ・兵庫県がん地域連携パスの活用（胃がん・大腸がん・肝臓がん・子宮がん・乳がん）
- ・がん診療連携拠点病院に準じる病院として，兵庫県がん診療連携協議会幹事会への参加，各種事業への協力，地域診療連携の推進
- ・他の医療機関との連携による放射線治療の拡充

2) 脳卒中への対応

- ・西宮市脳卒中地域連携パス会議へ参加し，比較的医療ニーズの高い患者の積極的な受入れを実施
- ・脳卒中の急性期治療を担う医療機関との連携強化
- ・機能改善に向けた理学療法士¹⁵，作業療法士¹⁶，言語聴覚士¹⁷によるリハビリテーションの実施
- ・早期発見，予防につながる脳ドックの実施

3) 循環器疾患への対応

- ・循環器疾患（高血圧・動脈硬化・心筋梗塞）の診断・治療
- ・下肢動脈末梢血管造影¹⁸と下肢動脈形成術¹⁹

¹⁴ 患者と家族のQOL向上のために，緩和ケアに関する専門的な知識や技術を持った医師・看護師及び薬剤師等で構成したチームにより，患者と家族へのケアを行うチーム

¹⁵ PT (Physical Therapist) と呼ばれ，ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して，基本動作能力（座る，立つ，歩くなど）の回復や維持及び障害の悪化の予防を目的に，運動療法や物理療法（温熱，電気等の物理的手段を治療目的に利用するもの）などを用いて，自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職

¹⁶ OT (Occupational therapist) と呼ばれ，指を動かす，食事をする，入浴をする，など日常生活を送る上で必要な機能回復をサポートする専門職

¹⁷ ST (Speech-Language-Hearing Therapist) と呼ばれ，音声機能，言語機能又は聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため，言語訓練その他の訓練，これに必要な検査及び助言，指導その他の援助を行うことを業とする専門職

¹⁸ 閉塞性動脈硬化症が適応疾患であり，下肢動脈の閉塞・狭窄の有無を検査すること。

- ・徐脈性不整脈²⁰に対する診断・治療
- 4) 生活習慣病対策の拡充
 - ・糖尿病対策（教育入院・糖尿病教室）
 - ・糖尿病合併症（循環器・神経・腎臓・眼底）の早期発見・診断・治療
 - ・循環器疾患（高血圧・動脈硬化・心筋梗塞）の診断・治療
 - ・脂質異常症の診断・治療
 - ・睡眠時無呼吸症候群（SAS）²¹の診断・治療
 - ・慢性閉塞性肺疾患（COPD）²²の診断・治療
- 5) 認知症合併患者への対応
 - ・認知症看護認定看護師（H28.4月認定）、認知症ケア専門士の活用（H26年4月認定）
 - ・医師，認知症看護認定看護師，精神保健福祉士等により構成された認知症ケアチームの設置（H28.4月活動開始）
 - ・芦屋市認知症初期集中支援チームとの連携による積極的な救急患者受入
 - ・外来診療における軽度認知障害（MCI）の早期発見
 - ・芦屋市高齢介護課，地域包括支援センターとの連携
 - ・認知症，早期診断に関する知識の啓発

④ 外科系手術の拡充

外科系救急の体制整備，外科系疾患の患者受入を強化することで外科系手術件数の増加を目指す。また，効率的な手術室稼働が出来るよう麻酔科医の増員及び手術室等のスタッフの充実を図り，外科系手術の増加を目指す。

【手術件数（全診療科）】

項目	単	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	位	実績	目標	目標	目標	目標	目標
手術件数	件	2,250	2,300	2,500	2,650	2,800	3,000

⑤ 産婦人科医療の拡充

日本産科婦人科内視鏡学会の認定研修施設として，専門的知識が必要な女性泌尿器疾患（骨盤臓器脱や尿失禁など），高度な技術を必要とする腹腔鏡下手術に注力するとともに，婦人科腫瘍及び更年期婦人疾患にも対応していく。

¹⁹ 狭窄を起こした血管に対して，血管の内腔を拡張する治療のこと。

²⁰ 心拍数が遅くなる不整脈

²¹ 睡眠時に呼吸停止又は低呼吸になる病気

²² 慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称。タバコ煙を主とする有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患であり，喫煙習慣を背景に中高年に発症する生活習慣病

⑥ 整形外科医療の拡充

人工関節センターを平成 28 年 10 月に設置し、高齢者の疾患として増加が見込まれる変形性ひざ関節症の治療に専門的に対応している。また、外傷・転倒による骨折等の救急患者の診断、治療に対応し、術後の診療についてはリハビリテーション科と一体となって取り組む。

⑦ リハビリテーションの拡充

理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士による総合的なリハビリテーションが提供できるよう体制を整備するとともに、今後、増加が予想される脳卒中に伴う機能回復リハビリテーション、がん患者に対するリハビリテーション及び高齢者リハビリテーションの受入れを積極的に行うため、人員確保を進める。

【リハビリテーション件数】

項目	単 位	27 年度 実績	28 年度 目標	29 年度 目標	30 年度 目標	31 年度 目標	32 年度 目標
リハビリテーション 件数	件	26,772	23,000	32,000	35,000	36,000	37,000

⑧ 総合診療

今後、医療のなかでますます重要な役割を果たしていく総合診療について、患者のからだや心が抱える問題を総合的に診療し、必要に応じて専門医への橋渡しを行う「総合診療専門医」²³を育成する。

⑨ 政策医療の適切な実施

新型インフルエンザ等の感染症に対しては、兵庫県健康福祉事務所（保健所）と連携し、地域公的医療機関の責務を果たす。

また、子ども子育て支援事業への取組として、現在、院内保育所で行っている病児・病後児保育を継続して行っていく。

2 臨床研究事業

(1) 治験の推進

平成 25 年 3 月に治験センターを設置し、治験の実施を積極的に行っており、今後も、臨床研究事業に関与していく。

(2) 研究倫理の確立

²³ 専門化・細分化した特定の臓器・疾患に限定せず、多角的に診療する医師

臨床研究や治験を実施する際には、病院に設置された倫理委員会、治験審査委員会の審議を徹底する。

3 教育研修事業

(1) 質の高い医療従事者の育成・確保

① 質の高い医師の育成

初期臨床研修²⁴プログラムに基づき、質の高い研修を実施して良質な医師の育成を行う。大学の襁掛研修の実施及び臨床研修連携病院の拡充を図る。

臨床研修終了後²⁵の医師に対する専門分野の研修において、広く公募を行うとともに、基幹型病院との連携により後期研修プログラムの充実を図り、良質な医師を育成する。併せて幅広い総合的な診断能力を有し、全人的な医療を推進できる医師の育成に取り組む。

専門研修を担当する医師においては、専門医、認定医、指導医等の資格取得を促進し、医療の質の向上を図る。特に、臨床研修医指導医については、取得要件に該当する医師において全員が取得するよう努める。また、緩和ケア講習会については、全医師が受講済みとなるよう努める。

【研修医数】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
		実績	目標	目標	目標	目標	目標
初期研修医	人	3	3	6	6	6	6
後期研修医	人	1	2	3	4	5	6
合計	人	4	5	9	10	11	12

② 質の高い看護師の育成

使命感を持った質の高い看護師の育成を行うとともに、高度な看護実践能力を持ち、医師など他職種との協働によりチーム医療を提供していくことのできる看護師を育成するため、医療と一体となった看護教育に取り組む。

全看護師の技術及び意識向上に資するよう、専門看護師²⁶、認定看護師²⁷等の採用

²⁴ 医師法により、診療に従事しようとする医師は、指定する病院で2年間以上の臨床研修を受けることが義務付けられている。医師として必要な姿勢・態度、専門分野に限らず日常の一般的な診療に適切に対応できる基本的な診療能力を身につけるための制度

²⁵ 後期研修医制度を指し、初期臨床研修を修了した医師を対象とする臨床研修。専門分野の医療技術・知識を修得する目的で行われる。

²⁶ 特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師

²⁷ 複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた看護師

及び資格取得を推進し、看護の質の向上を図る。

看護学生の実習を積極的に受け入れ、高等看護教育に資する取組を行う。

【専門・認定看護師数】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
		実績	目標	目標	目標	目標	目標
専門・認定 看護師	人	7	8	12	13	13	13

③ 医療従事者の育成

コメディカル²⁸をはじめとする医療関係職種を対象とした研修についてさらなる充実を図る。

地域の医療従事者を対象とする研究会や研修会を企画し、地域全体の医療の質向上へ取り組む。

医療関係職種を目指す学生の実習を積極的に受け入れ、高度な専門知識、専門技術を有する医療従事者の育成に努める。

(2) 各種検診業務の充実・市民への疾病予防の啓発

疾病の早期発見、早期治療を促進するため、人間ドック、各種がん検診、特定健診等の受診者数増加に向けてホームページ等の広報強化に取り組む。また、地域住民を対象とした「がんフォーラム」や公開講座、糖尿病教室などを定期的に開催し、疾病予防の啓発活動に積極的に貢献する。

(3) 調査研究・情報発信機能の強化

臨床研究、治験、診療情報の分析等をはじめ、医療に関わる調査研究・情報発信機能の強化に努める。

III 業務運営効率化への取組

公営企業会計原則の下、部門別決算、月次決算等の精度を高め、効率的で透明な医業経営の確立を図る。財務面においては、収支相償（経常収支ベース）の経営を目指す。これらと合わせ業務の効率化を推進する。

1 効率的な業務運営体制

(1) 効率的で柔軟な組織体制の構築

地域特性や医療需要に応じた、効率的な組織とする。各部門における職員の配置に

²⁸ 医師の指示に基づき業務を行う医療従事者を指す。

については、各職員の職務と職責を考慮するとともに、医療を取り巻く環境の変化に応じるよう取り組む。

- ① 必要に応じた看護職や事務職等の副院長の配置
- ② 病棟部門看護師と外来部門看護師の連携
- ③ 看護助手、医師事務作業補助者²⁹、外来クラークの多様な活用

(2) 人材確保

医療を取り巻く状況の変化に応じ柔軟に対応できるよう、任期付職員の活用も含め、幅広い年齢層から良質な人材の確保に取り組む。また、確保する職種については、医療需要に応じて柔軟に対応する。

医師の確保については、医師事務作業補助者による積極的な事務負担軽減や学会参加支援等の労働環境の充実により離職防止を図る。

また、看護師については、新人看護師への教育の充実に努めるとともに、認定看護師等の資格取得支援などにより当院でスキルアップできることを通して仕事のやりがい高め、離職防止を図る。

【職員数】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
		実績	目標	目標	目標	目標	目標
医師	人	31	31	34	35	37	40
看護師	人	158	151	150	155	155	155
コメディカル	人	32	34	37	37	37	38
事務職	人	15	14	15	16	17	17
合計	人	236	230	236	243	246	250

※ 病院事業管理者を除く

(3) 事務部門の体制強化

長期的視点に立って病院運営をリードできる事務職員を育成するため、医療分野及び管理分野の双方に精通できるよう適切な配置を行う。また、有資格者の確保や資格支援を促進するとともに、診療報酬の請求業務について、収益の安定的確保の面から直営化を含めて体制強化を検討する。

(4) 組織の活性化

²⁹ 医師の指示により診断書・処方箋・紹介状の作成補助、電子カルテの入力代行、診察・検査・手術の予約などを行う。病院勤務医の負担軽減策として平成20年（2008年）の診療報酬改定に伴い導入

① 人材育成，教育研修機能の強化

医療分野における専門研修の充実はもとより，全人的な職員育成により患者サービス向上の素地の形成と組織力の向上を図るため，接遇をはじめとした一般研修の充実にも努める。

② 業績評価

職員が業務で発揮した能力・適性・実績等を適正に評価し，職員の給与に反映させるとともに，業務遂行意欲の向上を図る業績評価制度について，当該制度の適切な運用を継続し，病院の能率的運営につなげる。

また，資格（認定医，認定看護師等）を生かした職務，院外活動への寄与に対する人事評価の整備に取り組む。

③ 医師職にふさわしい給与体系の検討

医師が自己の働きに満足感と納得を感じ，貢献度が平等・公平のもとに客観的な評価を受け，その成果が給与に反映され，仕事へのモチベーションを上げることのできる年俸制度等の導入を検討する。

2 業務運営の見直しや効率化による収支改善

当院の特色・機能を十分に発揮させるとともに，院内の効率的・効果的な組織構築や職員の適正配置を行う。診療報酬上の施設基準の新規取得や効率的・効果的な医療の提供を通じて安定的な収入の確保を図るとともに，コスト削減に努める。サービスの質の向上や経営改善に関する職員の自主的取組を奨励し，効率的な業務運営に向けた職員の改善意欲の向上を図る。

(1) 経営意識の向上

① 経営力の向上

毎年の事業計画を通じた経営管理サイクルをさらに充実させるとともに，正規職員の育成を図る。

経営分析及び経営改善手法等の経営能力並びに診療報酬請求事務能力の向上を目的とした研修を定期的に行うことにより，職員の資質向上に努める。

② 政策医療に係るコスト分析

救急医療等の政策医療に係るコストの分析を実施し，必要な機能を維持しつつ適正なコスト管理を実施する。

③ 効率的な業務プロセスの再構築について

管理会計の整備に向け，DPC³⁰分析ツールの活用によるベンチマークを行うとともに

³⁰ Diagnosis Procedure Combination（診断群分類）の略称であり，医療費の入院1日あたりの定額支払い制度のこと。

に、診療行為別医療情報等を活用できるよう電子カルテシステムの有効活用を図る。併せて診療機能支援、情報の集約化及び部門間の連携強化に活用する。

(2) 収入の確保

① 病床稼働の向上

良質で満足度の高い医療サービスを提供することにより、より多くの患者に当院の利用を促進し、患者数の増加による収入を確保する。

② 診療報酬業務の改善

適切な診療報酬請求業務の実施に向け、業務自体の直営化を含めて検討することとし、職員の能力向上に取り組む。

③ 未収金対策の徹底

未収金については、新規発生防止及び早期解決の取組を一層推進し、また法的手段の実施等によりその回収に努める。

(3) 業務運営コストの節減等

医薬品等の購入方法や業務委託の推進・点検など様々な取組や病院の有する人的・物的資源及びそのネットワークを有効に活用し、経営改善を図ることにより、費用の節減等を図る。

① 業務運営コストの節減

1) 材料費

同種同効医薬品の整理など、さらなる使用医薬品の標準化を推進し、調達方法及び対象品目等の見直しを行い、物流一元化の評価及び検証を実施するなどにより薬品費及び診療材料費等の材料費比率の増加の抑制を図る。

包括医療等の今後の診療報酬改定を考慮しつつ後発医薬品の採用を促進し、機能評価係数において評価される数量ベースの後発医薬品使用率の 85%以上を目指す。

【後発医薬品使用率】

項目	単	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	位	実績	目標	目標	目標	目標	目標
後発医薬品	%	56.2	60.0	70.0	<u>85.0</u>	<u>85.0</u>	<u>85.0</u>
					80.0	80.0	80.0

※ H27の実績はH26年10月～H27年9月の実績値

2) 人件費比率等

医療の高度化や各種施策などにも留意しつつ、適切な人員配置に努めるとともに、業務委託についてもコスト削減に十分配慮した有効活用を図る。人件費比率と委託料比率を合計した率については、業務の量と質に応じた病院運営の適切な率を目指す。

業務委託、人材派遣、非正規（嘱託職員、臨時的任用職員）の雇用に際しては、指揮命令系統の整備、パートナーシップの醸成、社会経済情勢への配慮など、より良質な医療サービスの提供に主眼を置いて実施するとともに、当該業務の専門性及び特殊性を鑑み、点検を行う。

また、複数年契約や複合契約、分離発注の有効性に関しては日常的に点検を行う。

【人件費比率・委託料比率】

項目	単	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	位	実績	目標	目標	目標	目標	目標
人件費比率	%	62.7	64.4	63.9	64.3 62.8	62.0 60.5	59.7 59.1
委託料比率(※)	%	7.5	7.9	7.9	7.6 7.5	7.3 7.2	7.0 6.9
合計	%	70.2	72.3	71.8	71.9 70.3	69.3 67.7	66.7 66.0

※委託料比率は、人材派遣等に係る費用を計上

3) 投資の効率化

大型医療機器整備の入札にあたっては、他病院の導入実績を把握し、必要に応じて共同歩調を取るなど購入費用の削減を図る。

4) 適正な契約事務の実施

原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、公平性及び透明性が十分確保される方法により実施する。また、長期継続契約の導入など経費の削減を図る。

② 医療資源の有効活用

1) 医療機器の効率的な利用の促進

医療機器の効率的な使用に努め、臨床工学技士（ME：medical engineer）³¹による集中管理及びメンテナンスを実施し、稼働率の向上を図る。また、他の医療機関か

³¹ 高性能の医療機器の操作方法を医師や看護師等の医療スタッフに指導を行い、医療機器の保守・点検を行う技術職

らの共同利用を推進し、CT、MRI の高額医療機器の利用増加を目指す。

2) 病床の効率的な利用の促進

病診連携・病病連携の推進等により、平均在院日数の短縮を図るとともに、新規患者数を増加させるなどにより収支の改善に努める。

【平均在院日数】

項目	単	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	位	実績	目標	目標	目標	目標	目標
平均在院日数	日	13.4	13.0	13.0	12.5	12.5	12.0

※緩和ケア病棟を除く。

3) 診療科の公募

院内開業による診療を目指した「耳鼻いんこう科」については、引き続き病院機能との連携を考慮した誘致に努め、医療機関としての機能の維持・向上及び財政基盤の安定化など有効活用に努める。

4) 医師事務作業補助者の活用

医師事務作業補助者の有効活用により、医師業務の軽減を行い、診療業務の効率化を推進する。

IV 収支計画及び資金計画

新改革プランで定めた計画を確実に実施することにより、財務内容の改善を図るため、以下の目標を達成する。

1 経営の改善

部門別決算及び月次決算を行うことにより各部門における経営実態を早期に把握し、問題点の抽出・改善を図り、新改革プラン計画期間の各年度における経常収支比率の改善を目指す。

2 収支計画の策定

新改革プランにおいて策定した各項目の着実な実行を前提とした医業収支の見込を反映した収支計画を策定し、各項目について毎年度ローリングによる見直しを行い、確実な医業収支の改善を図る。

- ・市立芦屋病院収支計画（資料1）

3 医療機器・建物整備に関する計画

安全で良質な医療の向上を維持するためには、効率的・効果的な医療機器の更新及び施設整備は不可欠なものであり、特に、老朽化している高額医療機器等の更新については、当院に期待されている診療機能との整合性や、経費面からの費用対効果を稼働率などの客観的な視点で評価し、年次計画に基づき更新する。

- ・市立芦屋病院医療機器等整備計画（資料2）
- ・市立芦屋病院施設整備計画（資料3）

4 債務の償還

新病棟建設事業等で借り入れた企業債及び毎年度の収支不足を補うために一般会計からの長期借入金の償還残高が、平成27年度末に約102億円となっている。その元利償還金の返済は平成32年度には約8億円と見込んでおり、経営を圧迫することが予測される。

そのため、収支相償を維持しつつ、借入金の元利償還が可能となるよう経営改善に努める。

V その他業務運営に関する取組

1 広報に関する事項

当院の使命、果たしている役割・業務等について、広く市民の理解が得られるよう診療内容をわかりやすくタイムリーに発信するなど積極的な広報に努める。また、ホームページだけではなくサンテレビ文字データ放送の「まちナビ」やCATV等の多様な媒体を活用した発信方法により広報を展開する。

2 病院機能評価³²

日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査を継続的に受審し、機能の一層の充実・向上を推進する。

VI 市立芦屋病院新改革プランの評価

新改革プランの実効性の確保に関しては、市立芦屋病院新改革プラン評価委員会（仮称）（以下、「委員会」という。）を開催し、市立芦屋病院新改革プラン進捗状況（資料4）等について、定期的に評価・検証を受けることとする。新改革プランの実行に当たり市立芦屋病院は、委員会からの指導、勧告に基づき行うことに努める。

なお、委員会の評価・検証内容は公表するものとする。

³² 財団法人日本医療機能評価機構が実施する、医療の質と安全の向上を目的として、一定の基準に基づき、中立の立場から医療施設を評価したもの。認定を受けると5年間有効とされるが、認定の更新には再審査が必要

市立芦屋病院収支計画

一般病床	175床
緩和ケア病床	24床
合計	199床

平成 30 年 7 月

総括表

I 収益の収支

(単位：千円)

項目	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
1 医業収益	4,618,656	4,913,017	5,161,650	5,429,050	5,429,050	5,429,050	5,439,665	5,429,050	5,429,050	5,429,050	5,439,665
2 医業費用（減価償却費除く）	4,650,509	4,861,558	4,955,262	5,057,576	5,076,815	5,103,902	5,122,159	5,147,676	5,148,183	5,174,705	5,207,449
3 医業損益（1-2）	△ 31,853	51,459	206,388	371,474	352,235	325,148	317,506	281,374	280,867	254,345	232,216
4 医業外収益・特別利益	375,842	376,995	399,491	399,213	397,367	395,294	393,154	391,007	389,064	387,204	385,308
5 医業外費用・特別損失	148,094	180,705	176,780	184,564	181,438	176,802	172,622	168,402	164,478	160,733	157,536
6 減価償却前損益（3+4-5）	195,895	247,749	429,099	586,123	568,164	543,640	538,038	503,979	505,453	480,816	459,988
7 減価償却費等	608,208	563,045	495,153	496,974	495,357	487,364	497,400	492,402	448,909	373,994	345,279
8 純損益（6-7）	△ 412,313	△ 315,296	△ 66,054	89,149	72,807	56,276	40,638	11,577	56,544	106,822	114,709
9 累積損益（前年度9+8）	△ 669,316	△ 984,612	△ 1,050,666	△ 961,517	△ 888,710	△ 832,434	△ 791,796	△ 780,219	△ 723,675	△ 616,853	△ 502,144

26

II 資本の収支

項目	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
10 資本の収入	236,834	780,748	843,958	344,928	367,024	426,714	446,923	382,849	313,180	310,289	262,993
11 資本の支出	695,635	1,276,018	1,323,798	918,367	1,058,464	1,110,268	1,118,637	929,565	752,393	717,303	657,255
12 差引額（10-11）	△ 458,801	△ 495,270	△ 479,840	△ 573,439	△ 691,440	△ 683,554	△ 671,714	△ 546,716	△ 439,213	△ 407,014	△ 394,262

III 資金余剰

項目	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
13 単年度資金余剰	△ 313,010	△ 74,130	5,849	△ 49,626	△ 97,841	△ 123,612	△ 118,596	△ 21,869	74,982	109,845	88,747
14 長期借入金	340,000	140,000	0	80,000	140,000	110,000	110,000	0	0	0	0
15 累積資金余剰	322,252	388,122	393,971	424,345	466,504	452,892	444,296	422,427	497,409	607,254	696,001

I 収益の収支

(単位：千円)

項 目	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度		
収 益	医 業 収 益	4,618,656	4,913,017	5,161,650	5,429,050	5,429,050	5,429,050	5,439,665	5,429,050	5,429,050	5,429,050	5,439,665	
	入院収益（一般病床）	2,586,658	2,789,026	3,000,975	3,241,044	3,241,044	3,241,044	3,249,929	3,241,044	3,241,044	3,241,044	3,249,929	
	入院収益（緩和ケア病床）	314,532	378,432	379,458	378,432	378,432	378,432	379,458	378,432	378,432	378,432	379,458	
	外来収益	1,057,299	1,084,580	1,101,660	1,118,740	1,118,740	1,118,740	1,118,740	1,118,740	1,118,740	1,118,740	1,118,740	
	室料差額収益	240,738	238,726	247,026	256,807	256,807	256,807	257,511	256,807	256,807	256,807	257,511	
	一般会計負担金	255,986	260,826	269,610	269,610	269,610	269,610	269,610	269,610	269,610	269,610	269,610	
	その他医業収益	163,443	161,427	162,921	164,417	164,417	164,417	164,417	164,417	164,417	164,417	164,417	
	医 業 外 収 益	372,834	375,995	398,491	398,213	396,367	394,294	392,154	390,007	388,064	386,204	384,308	
	一般会計・他会計負担金	281,173	287,273	310,142	309,165	307,349	305,287	303,227	301,180	299,237	297,377	295,481	
	その他医業外収益	91,661	88,722	88,349	89,048	89,018	89,007	88,927	88,827	88,827	88,827	88,827	
収益合計	4,991,490	5,289,012	5,560,141	5,827,263	5,825,417	5,823,344	5,831,819	5,819,057	5,817,114	5,815,254	5,823,973		
費 用	医 業 費 用	4,650,509	4,861,558	4,955,262	5,057,576	5,076,815	5,103,902	5,122,159	5,147,676	5,148,183	5,174,705	5,207,449	
	給 与 費	3,018,059	3,159,664	3,198,243	3,240,090	3,259,329	3,286,416	3,302,590	3,330,196	3,330,703	3,357,225	3,387,886	
	給 料	891,059	978,418	986,276	1,006,987	1,013,339	1,019,596	1,027,403	1,031,572	1,038,480	1,042,642	1,045,726	
	手 当	844,436	896,227	919,035	939,185	942,658	946,080	950,341	952,622	956,387	958,659	960,340	
	賞与引当金繰入額	156,908	171,282	172,658	176,284	177,396	178,491	179,858	180,588	181,797	182,526	183,066	
	賃 金	170,432	176,803	176,803	176,803	176,803	176,803	176,803	176,803	176,803	176,803	176,803	
	報 酬	453,108	443,209	443,209	443,209	443,209	443,209	443,209	443,209	443,209	443,209	443,209	
	法定福利費	382,487	379,924	382,975	391,017	393,484	395,914	398,945	400,564	403,246	404,862	406,060	
	退職給付費	119,629	113,801	117,287	106,605	112,440	126,323	126,031	144,838	130,781	148,524	172,682	
	材 料 費	843,997	906,407	954,534	1,008,003	1,008,003	1,008,003	1,010,086	1,007,997	1,007,997	1,007,997	1,010,080	
	経 費	776,472	780,975	787,840	794,704	794,704	794,704	794,704	794,704	794,704	794,704	794,704	
	研究研修費	11,981	14,512	14,645	14,779	14,779	14,779	14,779	14,779	14,779	14,779	14,779	
	医 業 外 費 用	128,296	150,705	146,780	154,564	151,438	146,802	142,622	138,402	134,478	130,733	127,536	
	支払利息	103,677	98,948	94,497	92,473	88,786	84,610	80,437	76,294	72,349	68,579	64,741	
	企業債利息	103,000	97,887	93,475	91,519	87,888	83,763	79,644	75,551	71,665	67,945	64,152	
	長期借入金利息	677	686	647	579	523	472	418	368	309	259	214	
	一時借入金利息	0	375	375	375	375	375	375	375	375	375	375	
	患者外給食材料費	1,803	1,848	1,865	1,882	1,882	1,882	1,882	1,882	1,882	1,882	1,882	
	雑損失・消費税	22,816	49,909	50,418	60,209	60,770	60,310	60,303	60,226	60,247	60,272	60,913	
	費用合計	4,778,805	5,012,263	5,102,042	5,212,140	5,228,253	5,250,704	5,264,781	5,286,078	5,282,661	5,305,438	5,334,985	
	減価償却前損益	212,685	276,749	458,099	615,123	597,164	572,640	567,038	532,979	534,453	509,816	488,988	
	減 費 等 償	減価償却費	607,402	554,726	486,834	488,655	487,038	479,045	489,081	484,083	440,590	365,675	336,960
		資産減耗費	806	8,319	8,319	8,319	8,319	8,319	8,319	8,319	8,319	8,319	8,319
計	608,208	563,045	495,153	496,974	495,357	487,364	497,400	492,402	448,909	373,994	345,279		
経 常 損 益	△ 395,523	△ 286,296	△ 37,054	118,149	101,807	85,276	69,638	40,577	85,544	135,822	143,709		
損 益 別	特別利益	3,008	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000		
	特別損失	19,798	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000		
純 損 益	△ 412,313	△ 315,296	△ 66,054	89,149	72,807	56,276	40,638	11,577	56,544	106,822	114,709		

II 資本的収支

(単位：千円)

項 目		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
収 入	企業債	47,500	364,300	710,600	137,900	77,000	127,000	141,100	136,000	133,800	131,100	74,800
	〃 (繰越)		249,000									
	他会計出資金	187,033	167,448	133,358	207,028	290,024	299,714	305,823	246,849	179,380	179,189	188,193
	補助金	1,781										
	寄附金	520										
	投資返還金											
	基金繰入金											
	計	236,834	780,748	843,958	344,928	367,024	426,714	446,923	382,849	313,180	310,289	262,993
支 出	建設改良費	47,783	618,372	715,681	142,910	82,016	132,029	146,190	141,067	138,833	136,124	79,869
	増改築工事	5,184		15,000								
	医療機器等購入	37,599	364,372	695,681	137,910	77,016	127,029	141,190	136,067	133,833	131,124	74,869
	〃 (繰越)		249,000									
	備品購入	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	企業債償還金	351,287	311,246	261,717	409,057	575,048	594,429	606,647	488,698	353,760	353,379	371,386
	長期借入金償還金	291,300	340,400	340,400	360,400	395,400	377,810	359,800	293,800	253,800	221,800	200,000
	投資(職員貸付金)	2,964	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	基金造成費	2,301										
	計	695,635	1,276,018	1,323,798	918,367	1,058,464	1,110,268	1,118,637	929,565	752,393	717,303	657,255
資本的収支	△ 458,801	△ 495,270	△ 479,840	△ 573,439	△ 691,440	△ 683,554	△ 671,714	△ 546,716	△ 439,213	△ 407,014	△ 394,262	

収支計画の算定にあたって

1 算定基礎

- ・平成30年4月以降の人的資源の配置から「診療機能」並び「療養環境」の充実を基本に算定する。

2 各項目の積算

(1) 収益的収支

① 入院収益

- ・病床数については199床とする。
- ・看護師配置を7:1且つ病床稼働率94%を目標とする。
- ・30年度予算を基本とし、医師確保による効果分及び平均在院日数を段階的に短縮させることにより、入院単価を32年度まで段階的に53,000円まで増加

② 外来収益

- ・30年度予算を基本とし、32年度まで段階的に13,100円まで増加

③ 室料差額収益

- ・30年度予算を基準に、病床稼働率を乗じて積算

④ 一般会計負担金

- ・救急医療及び医療相談等に係る一般会計負担金を積算

⑤ その他医業収益

- ・健診、人間ドック、文書料等を積算

⑥ 一般会計補助金

- ・31年度予算を基準に積算

⑦ その他医業外収益

- ・レンタルテレビ使用料、駐車場使用料等（駐車場利用料40,000円/日、職員駐車場利用料6,000円/人）を積算

⑧ 給与費

- ・30年度予算（管理者、医師職38人、看護職155人、医療技術職38人、事務職17人の249人体制）から、医師は32年度に40名体制とし、全職員数251名体制を維持できるように採用する。
- ・給料、手当等、法定福利費は、職員数の増減に合わせて積算
- ・賃金、報酬は、30年度予算を基準とする。

⑨ 材料費

- ・30年度予算を基準に、患者数の増減に合わせて積算

⑩ 経費

- ・30年度予算を基準に積算

⑪ 研究研修費

- ・30年度予算を基準に積算

- ⑫ 借入金利息
 - ・ 企業債及び長期借入金の償還利息及び一時借入金に係る支払利息を積算
- ⑬ 患者外給食材料費
 - ・ 30 年度予算を基準に積算
- ⑭ 雑損失・消費税
 - ・ 消費税等納税額で積算し、消費税の増税分を加算する。
- ⑮ 減価償却費等
 - ・ 減価償却費，棚卸資産減耗費，固定資産除却費を積算
- ⑯ 特別利益
 - ・ 過年度収益，30 年度予算と同額とする。
- ⑰ 特別損失
 - ・ 過年度損失，30 年度予算と同額とする。

(2) 資本的収支

- ① 企業債
 - ・ 建設改良に係る支払資金の借入額を積算
- ② 他会計出資金
 - ・ 建設改良に係る一般会計からの出資金を積算
- ③ 建設改良費
 - ・ 施設建設（整備）等の投資的事業及び取得価格 10 万円以上，耐用年数 1 年以上の医療機器等の購入額を積算
- ④ 企業債償還金
 - ・ 建設改良に係る借入金の償還元金を積算（借入時期・金額・利率を実績へ修正）
- ⑤ 長期借入金償還金
 - ・ 一般会計借入金の償還元金を積算
- ⑥ 投資（職員貸付金）
 - ・ 30 年度予算と同額とする。

資 金 計 画

(単位：千円)

項 目	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
前年度末残高	295,262	322,252	388,122	393,971	424,345	466,504	452,892	444,296	422,427	497,409	607,254
受入資金	5,156,264	6,167,698	6,380,890	6,139,274	6,190,761	6,249,947	6,277,544	6,203,240	6,130,504	6,125,697	6,085,872
入院・外来収益	3,880,601	4,370,916	4,459,794	4,706,327	4,736,576	4,738,134	4,746,934	4,739,343	4,738,275	4,738,219	4,746,938
一般会計負担金・出資金	724,192	715,547	713,110	785,803	866,983	874,611	878,660	817,639	748,227	746,176	753,284
企業債	47,500	613,300	710,600	137,900	77,000	127,000	141,100	136,000	133,800	131,100	74,800
その他収益	503,971	467,935	497,386	509,244	510,202	510,202	510,850	510,258	510,202	510,202	510,850
支払資金	5,469,274	6,241,828	6,375,041	6,188,900	6,288,602	6,373,559	6,396,140	6,225,109	6,055,522	6,015,852	5,997,125
給与費	2,976,972	3,097,511	3,145,987	3,228,077	3,223,242	3,269,649	3,283,350	3,298,857	3,317,758	3,316,885	3,355,338
材料費	864,446	940,652	950,684	1,003,726	1,008,003	1,008,003	1,009,919	1,008,164	1,007,997	1,007,997	1,009,914
借入金利息	103,677	98,948	94,497	92,473	88,786	84,610	80,437	76,294	72,349	68,579	64,741
建設改良・器機購入	86,323	603,116	687,977	188,731	86,888	128,028	145,057	141,477	139,011	136,341	84,369
企業債償還金	351,287	311,246	261,717	409,057	575,048	594,429	606,647	488,698	353,760	353,379	371,386
長期借入金償還金	291,300	340,400	340,400	360,400	395,400	377,810	359,800	293,800	253,800	221,800	200,000
その他経費	795,269	849,955	893,779	906,436	911,235	911,030	910,930	917,819	910,847	910,871	911,377
収入・支出差引	△ 313,010	△ 74,130	5,849	△ 49,626	△ 97,841	△ 123,612	△ 118,596	△ 21,869	74,982	109,845	88,747
長期借入金	340,000	140,000	0	80,000	140,000	110,000	110,000	0	0	0	0
資金残高	322,252	388,122	393,971	424,345	466,504	452,892	444,296	422,427	497,409	607,254	696,001

市立芦屋病院医療機器整備計画

(単位：円)

年 度	整備総額
29年度	42,599,368
30年度	618,372,025
31年度	700,680,800
32年度	142,910,000
33年度	82,016,200
34年度	132,028,800
35年度	146,190,200
36年度	141,067,344
37年度	138,833,184
38年度	136,123,770
39年度	79,869,000
計	2,360,690,691

医療機器等明細 (取得価格300万円以上, 税抜)

(単位：円)

名 称	取得年度	耐用年数	購入価格
X線テレビシステム	新規取得	5	6,300,000
血糖検査システム	新規取得	6	7,240,000
生化学自動分析装置	新規取得	6	3,730,000
超音波画像診断装置	新規取得	6	3,200,000
眼科用超音波診断装置	H03	6	4,300,000
スペキュラーマイクロスコープ	H07	8	3,160,000
マイクロ波手術器セット	H10	6	5,101,000
ビデオエンドスコープシステム	H11	6	4,500,000
血液ガス分析装置	H11	6	5,600,000
内視鏡システム	H11	5	4,000,000
カラードプラ超音波診断装置	H13	6	17,000,000
プローブ用超音波観測装置	H13	6	3,520,000
耳鼻科用アルゴンプラズマ高周波手術装置	H13	5	3,500,000
電子内視鏡ビデオヒストロスコープ	H14	6	4,300,000
腹腔鏡手術用カメラ	H14	6	2,790,000
ベッセルシーリングシステム	H15	5	3,250,000
関節鏡セット	H15	5	3,200,000
大腸内視鏡スコープ	H16	6	3,080,000
乳房撮影装置	H16	6	9,300,000
自動視野計	H17	5	4,480,000
X線一般撮影装置	H18	6	8,500,000
磁気共鳴画像検査装置 (MR I)	H18	6	196,380,000
スリットランプ	H19	8	4,758,000
眼底カメラシステム	H19	8	8,370,000
X線一般撮影装置	H19	6	10,450,000
X線血管造影装置 (アンギオ)	H19	4	46,434,000

名 称	取得年度	耐用年数	購入価格
コンピューター断層撮影装置 (CT)	H19	6	140,778,000
汎用超音波診断装置	H20	6	4,250,000
腹腔鏡システム	H20	5	5,750,000
超音波診断装置	H20	8	5,600,000
全身麻酔装置	H20	6	4,300,000
臨床化学自動分析装置	H20	6	16,000,000
全自動免疫測定装置	H20	6	22,900,000
密閉式自動固定包埋装置	H20	5	4,000,000
生化学自動分析装置	H20	6	2,500,000
内視鏡システム	H20	6	11,000,000
大腸内視鏡スコープ	H20	6	3,000,000
調剤支援システム	H20	6	31,592,000
患者監視モニター	H20	6	3,850,000
救急外来血液自動分析装置	H20	6	3,000,000
自動採取管準備システム	H20	6	41,000,000
総合臨床検査システム	H20	6	57,000,000
超音波診断装置	H21	6	7,610,000
内視鏡システム	H21	6	5,140,000
マンモ用コイル	H21	6	3,000,000
赤外線カメラシステム	H21	6	5,000,000
患者監視モニター	H21	6	3,150,000
電話交換機	H21	6	9,888,000
超音波診断装置	H21	6	4,250,000
DPC分析ソフト	H22	6	4,300,000
凍結組織切片作製装置	H22	6	4,000,000
コンピューター処理放射線撮影装置	H22	6	13,000,000
高周波手術装置	H22	6	4,150,000
バーチャルスライドシステム	H22	6	6,650,000
高周波手術装置	H23	5	3,640,000
運動負荷心電図	H23	6	3,900,000
ホルター心電図解析装置	H23	6	15,000,000
電子カルテシステム	H24	5	429,523,810
脳波計	H24	6	3,640,000
血液成分分離装置	H24	4	12,800,000
温冷配膳車	H24	5	10,820,000
小腸用ダブルバルーン内視鏡	H24	5	4,657,000
大腸ビデオスコープ	H24	6	3,410,000
大腸ビデオスコープ	H24	6	3,410,000
大腸ビデオスコープ	H24	6	3,410,000
上部汎用ビデオスコープ	H24	6	3,664,000
上部汎用ビデオスコープ	H24	6	3,664,000
上部汎用ビデオスコープ	H24	6	3,150,000
内視鏡システム	H24	6	15,590,700
インバータ式コードレス移動型X線装置	H24	4	3,380,000
超音波画像診断装置	H24	6	5,100,000
病室モニタシステム	H24	6	37,820,000
クリーン蒸気式高圧蒸気滅菌装置	H24	4	14,450,000
クリーン蒸気式高圧蒸気滅菌装置	H24	4	14,450,000
ウォッシャーディスインフェクター	H24	4	9,306,000

名 称	取得年度	耐用年数	購入価格
ウォッシュャーディスインフェクター	H24	4	9,306,000
RO水製造装置	H24	6	9,400,000
洗濯機	H24	6	3,646,000
子宮鏡	H24	5	3,040,000
超音波白内障手術装置	H24	5	9,720,000
血液ガス分析装置	H24	4	3,400,000
全自動尿検査統合システム	H24	5	12,000,000
手術室機器（シーリングペンダント・麻酔用）	H24	5	3,469,050
手術室機器（シーリングペンダント・麻酔用）	H24	5	3,469,050
手術室機器（シーリングペンダント・麻酔用）	H24	5	3,469,050
手術室機器（シーリングペンダント・麻酔用）	H24	5	3,469,050
手術室機器（超音波手術装置）	H24	5	10,470,664
手術室機器（内視鏡システム）	H24	5	9,943,632
手術室機器（手術台）	H24	5	9,371,569
手術室機器（プラズマ滅菌装置）	H24	5	13,348,140
手術室機器（麻酔器）	H24	5	6,287,806
手術室機器（麻酔器）	H24	5	6,287,806
手術室機器（麻酔器）	H24	5	6,287,806
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,520,389
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,520,389
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,667,072
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,667,072
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,960,438
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,960,438
手術室機器（無影灯）	H24	5	4,107,120
手術室機器（無影灯）	H24	5	4,107,120
心電計	H24	6	3,450,000
心電計	H24	6	3,450,000
心電計	H24	6	3,450,000
院外パソコン一式	H25	5	6,950,000
財務会計システム	H25	6	8,470,000
人給・給与システム	H25	6	9,960,000
骨密度測定装置	H26	6	7,000,000
大腸カプセルシステム	H26	6	3,650,000
調剤システム	H26	5	3,944,000
超音波画像診断装置	H26	6	12,500,000
移動型X線撮影装置	H27	6	3,560,000
感染管理対策システム	H27	5	17,000,000
シラス HD-OCT	H27	6	5,280,000
超音波診断装置	H27	6	4,300,000
超音波診断装置	H28	6	3,300,000
放射線画像サーバー拡張	H28	5	3,500,000
X線透視診断装置	H28	6	24,700,000
画像解析ワークステーション	H28	5	15,000,000
全自動血液凝固測定装置	H28	6	3,240,000

施設整備計画

(単位：千円)

施設名称	建設年度	耐用年数	現況	整備費用				
				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
外来棟外壁改良工事	S62	40年	外来棟は建築後26年を経過しており、外壁のタイルが劣化から剥がれ落ちる事故が発生しており改修が必要	50,652				
院内保育所増設工事	H20	-	院内保育所の定員12人のところ、定員超過の16～17人の状況であり、早急の増設が必要	10,000				
外来棟高圧電気設備	S62	25年	現状は、部品交換等メンテナンスをしているが、耐用年数がきているので改修が必要	30,000				
外来棟エレベーター	S62	25年	現状は、部品交換等メンテナンスをしているが、耐用年数がきているので改修が必要			5,184		
管理棟吸収式冷温水発生機	H11	15年	23年度に一部消耗部品等の交換オーバーホール完了					15,000

市立芦屋病院 新改革プラン進捗状況

達成度【計画以上=◎, 計画通り=○, 計画未達=×】

1 経営指標に係る数値目標に関すること

項目	単位	28年度			29年度								自己評価	評価委員会	
		上半期実績(A)	下半期実績(B)	年間実績(C)	年間目標(D)	上半期実績(E)	下半期実績(F)	年間実績(G)	前年との差 G-C	前年との比率 G/C	目標到達差 G-D	目標達成率		達成度	達成度
(1) 経常収支比率 ^{※1}	%	117.5	76.9	94.6	92.9	100.8	86.1	92.0	△ 2.6	97.3	△ 0.9	99.0	×		
(2) 医業収支比率 ^{※2}	%	105.2	77.1	90.9	88.6	95.7	81.4	88.8	△ 2.1	97.7	0.2	100.2	○		
(3) 入院単価	円	44,941	45,659	45,290	46,000	46,688	46,136	46,399	1,109	102.4	399	100.9	○		
(4) 外来単価	円	12,425	12,435	12,426	12,500	12,467	12,731	12,595	169	101.4	95	100.8	○		
(5) 病床利用率 ^{※3}	%	82.7	79.7	81.2	82.2	76.6	83.4	80.0	△ 1.2	98.5	△ 2.2	97.3	×		
(6) 病床稼働率 ^{※4}	%	88.4	85.5	87.0	87.9	82.7	89.5	86.1	△ 0.9	99.0	△ 1.8	98.0	×		
(7) 1日入院患者数	人	175.9	170.2	173.1	175.0	164.5	178.1	171.3	△ 1.8	99.0	△ 3.7	97.9	×		
(8) 1日外来患者数	人	331.9	346.0	338.9	350.0	341.0	347.0	344.0	5.1	101.5	△ 6.0	98.3	×		
(9) 人件費比率 ^{※5}	%	49.3	77.8	63.0	63.9	55.6	74.6	65.7	2.7	104.3	1.8	97.2	×		
(10) 材料費比率 ^{※6}	%	18.4	19.2	18.1	18.6	18.6	17.9	17.6	△ 0.5	97.2	△ 1.0	105.4	○		
(11) 医師数	人	32	33	33	34	33	35	35	2	106.1	1	102.9	○		
(12) 看護師数	人	149	148	148	150	144	142	142	△ 6	95.9	△ 8	94.7	×		

※1 経常収支比率：(医業収益+医業外収益)÷(医業費用+医業外費用)×100

目標数値及び上半期・下半期の実績値は税込で算出

※2 医業収支比率：(医業収益÷医業費用)×100

目標数値及び上半期・下半期の実績値は税込で算出

※3 病床利用率：24時現在病院内に在院中の延患者数を年間病床数で除した率

※4 病床稼働率：24時現在病院内に在院中の延患者数に退院患者数を加えた数を年間病床数で除した数

※5 人件費比率：(給与費÷医業収益)×100

目標数値及び上半期・下半期の実績値は税込で算出。実績値が目標値より少ない方が良い指標である

※6 材料費比率：(材料費÷医業収益)×100

目標数値及び上半期・下半期の実績値は税込で算出。実績値が目標値より少ない方が良い指標である

(11)医師数、(12)看護師数の上半期実績は9月末時点、下半期及び年間実績は3月末時点の数値である

【平成29年度の状況】

- (1) 平成29年度の経常収支は、428,650千円の経常損失となり、経常収支比率は92.0%で目標未達成となった。
平成28年度と比較すると、2.6ポイント減少しており、これは、経常収益は49,732千円増加したものの、経常費用が195,900千円増加したことが要因である。
- (2) 平成29年度の医業収支は、577,429千円の医業損失となり、医業収支比率は88.8%となった。平成28年度と比較すると、2.1ポイント減少しており、これは、入院・外来収益は73,951千円増加したものの、給与費が170,959千円増加したことが要因である。
- (3) 入院単価は、平成28年度と比較すると1,109円増加となり、目標を達成した。診療科別にみると、産婦人科が10,188円の増加となり、入院単価の高い腹腔鏡下手術が増加したことが要因である。また、平均在院日数において、外科が乳腺等の短期手術の増加のため2.2日短縮、糖尿病内科が2.1日短縮により単価増加となった。
- (4) 外来単価は、平成28年度と比較すると169円の増加となり、目標を達成した。診療科別にみると、血液・腫瘍内科が2,883円の増加となり、化学療法患者の増加が要因である。
- (5) (6) 病床利用率・稼働率は入院患者数の減少に伴い目標未達成となった。平成28年度と比較すると、平均在院日数の1日短縮および新規入院患者の大幅な増加が見られなかったことが要因である。
- (7) 1日入院患者数は、主に内科において患者数が減少したため目標未達成となった。平成28年度と比較すると平均在院日数が1日短縮したことにより1.8人の減少となった。
平均在院日数の長い血液・造血器等の疾患及び消化器疾患の減少が要因である。
- (8) 1日外来患者数は、外科及び産婦人科において患者数の増加が見られたものの目標未達成となった。平成28年度と比較すると5.1人の増加となり、主に外科の乳腺専門外来や下肢静脈瘤外来の増加及び産婦人科医の増員が要因である。
- (9) 人件費比率は、平成28年度と比較すると、2.7ポイントの増加となり目標未達成となった。これは、嘱託医師・嘱託看護師の報酬、退職給付費等の増加により給与費が170,959千円増加したことが要因である。
- (10) 材料費比率は、平成28年度と比較すると、0.5ポイントの減少となり目標を達成している。これは、主に診療材料の削減検討会を実施するなど、コスト削減に努めたことが要因である。
- (11) 医師数は、平成29年度に7名採用、5名退職のため、合計で2名増加し、目標を達成した。
平成28年度と比較すると、医師数の増加した診療科は、外科(1名)、整形外科(1名)、産婦人科(1名)。減少した診療科は、内科(1名)である。
- (12) 看護師数は、平成29年度に9名を採用したものの、平成28年度末に6名、平成29年度途中で9名退職したことから、合計で6名減少となり、目標は未達成となった。しかし、平成29年度中に実施した平成30年度採用試験により14名の採用予定者を確保した。

市立芦屋病院 新改革プラン進捗状況

達成度【計画以上=◎, 計画通り=○, 計画未達=×】

2 医療機能等に係る数値目標に関すること

項目	単位	28年度			29年度								自己評価	評価委員会	
		上半期実績(A)	下半期実績(B)	年間実績(C)	年間目標(D)	上半期実績(E)	下半期実績(F)	年間実績(G)	前年との差 G-C	前年との比率 G/C	目標到達差 G-D	目標達成率	達成度	達成度	評価の視点と助言
(1) 患者満足度(外来)	%	97.0	/	97.0	98.0	/	96.1	96.1	△ 0.9	99.1	△ 1.9	98.1	×		
患者満足度(入院)	%	99.0	/	99.0	98.0	/	100.0	100.0	1.0	101.0	2.0	102.0	○		
(2) クリティカルパス適用率	%	39.4	39.3	39.4	44.0	42.9	47.3	45.1	5.7	114.5	1.1	102.5	○		
(3) 紹介率	%	41.6	40.3	41.0	50.0	42.3	40.9	41.6	0.6	101.5	△ 8.4	83.2	×		
(4) 逆紹介率	%	55.4	54.8	55.1	70.0	77.9	76.0	76.9	21.8	139.6	6.9	109.9	○		
(5) 在宅復帰率	%	93.8	95.8	95.8	90.0	94.7	96.3	96.3	0.5	100.5	6.3	107.0	○		
(6) 救急受入患者数	件	1,912	2,189	4,101	4,300 (2,150)	2,064	2,291	4,355	254	106.2	55	101.3	○		
(7) 手術件数	件	1,033	1,090	2,123	2,500 (1,250)	1,156	1,205	2,361	238	111.2	△ 139	94.4	×		
(8) リハビリテーション件数	件	11,474	10,904	22,378	32,000 (16,000)	11,762	14,156	25,918	3,540	115.8	△ 6,082	81.0	×		
(9) 臨床研修医数	人	5	6	6	9	10	9	9	3	150.0	0	100.0	○		
(10) 専門・認定看護師	人	8	8	8	12	13	13	13	5	162.5	1	108.3	○		
(11) 後発医薬品使用率	%	66.9	72.0	69.5	70.0	85.0	92.3	88.3	18.8	127.1	18.3	126.1	◎		
(12) 人件費比率 ^{※1} (委託料込)	%	56.8	86.5	70.6	71.8	64.0	82.5	73.3	2.7	103.8	1.5	97.9	×		
(13) 平均在院日数 (緩和病棟除く)	日	13.8	12.8	13.3	13.0	11.8	12.8	12.3	△ 1.0	92.5	-	-	○		

※1 人件費比率：((給与費+人的委託料)÷医療収益)×100 目標数値及び上半期・下半期の実績値は税込で算出。実績値が目標値より少ない方が良い指標である

(6)救急患者数, (7)手術件数, (8)リハビリテーション件数の年間目標()内の数値は半期の目標値

(9)臨床研修医数, (10)専門・認定看護師数の上半期実績は9月末時点, 下半期及び年間実績は3月末時点の数値である

【平成29年度の状況】

- (1) 患者満足度調査の総合評価「当院の全体的な印象について」の質問に対し、入院では「不満」「やや不満」への回答が0件であり、満足度は100%となった。外来は昨年より「不満」「やや不満」への回答が増加したことにより、0.9ポイント減少となり、目標未達成となった。
- (2) クリティカルパス適用率は、平成28年度と比較すると5.7ポイント増加し、目標を達成した。小児科が新たに感染性胃腸炎・肺炎・喘息のパスを運用開始したことにより適用率が増加したことが大きな要因である。また、産婦人科・整形外科・眼科は概ね100%の適用率を維持。
- (3) 紹介率の向上に向け、紹介患者の更なる獲得、診療局部長会において断診となった事例の再検討、簡易紹介状のフォーマット作成等に取り組んだ。結果、平成28年度と比較し0.6ポイント増加したものの、目標未達成となった。
- (4) 逆紹介率については、診療局部長会において積極的な逆紹介の推進について協議し、診療情報提供料の適正な算定、返書チェックの強化、近隣開業医を紹介する「かかりつけ医カード」の充実、ICTネットワークを用いた逆紹介の推進を図った。結果、平成28年度より21.8ポイント増加の76.9%となり目標を達成した。
- (5) 在宅復帰率は、目標の90%及び7対1入院基本料の要件である80%を十分に達成した。一般病棟からの退院患者の96.3%が自宅及び特別養護老人ホームなどの居住系介護施設へ退院しており、在宅復帰の対象とならない一般病棟等への転院は少数であった。地域連携室において入院早期から退院困難な患者を抽出し、退院支援を実施するなど退院調整に取り組んでいる。
- (6) 救急受入患者数は、「断らない救急」の取組及び外科系救急の実施日の拡大により、平成28年度と比較すると254人増加し、目標を達成した。
- (7) 手術件数は、平成28年度と比較すると238件増加したものの目標未達成となった。産婦人科の腹腔鏡下手術、外科の乳腺手術は増加しているが、眼科の白内障手術等の減少が要因である。
- (8) リハビリテーション件数は、目標未達成であるが、理学療法士1名の増員により平成28年度と比較すると3,540件の増加となった。特に外来での提供強化により呼吸器リハビリテーションが増加したことが要因である。
- (9) 臨床研修医は、初期研修医の受入枠の増加及び後期研修医の採用者数を1名増員したことにより、平成28年度より3名増加し、目標を達成した。
- (10) 専門・認定看護師は、3名が新たに認定看護師資格(手術看護・感染管理・がん化学療法看護)を取得し、目標を達成した。
- (11) 後発医薬品使用率は、平成28年度と比較すると後発医薬品の登録数を100品目追加することで転換に積極的に取り組んだことにより目標を達成した。
- (12) 人件費比率(委託料込)は、平成28年度と比較すると2.7ポイントの増加となり、目標未達成となった。これは、嘱託医師・嘱託看護師の報酬及び退職給付費等の増加による給与費の増加、外注検査業務・放射線システム等の委託料が増加したことが要因である。
- (13) 平均在院日数(緩和病棟除く)は平成28年度と比較すると1日短縮され、目標を達成した。平均在院日数の短い乳房の良性・悪性腫瘍の疾患が増加し、平均在院日数の長い血液・造血器等の疾患が減少したことが要因である。

【平成 29 年度の主な取組】

I 当院の目指すべき方向

取組項目	計画本文	取組内容・効果等
5 再編・ネットワーク化 (P. 8)	「h-Anshin むこねっと」に参加し、逆紹介の推進及び各種連携パスへの参加など地域医療の効率化を目指す。なお、当院は神戸圏域とも隣接しており、当院独自の IT ネットワークである「芦っこメディカルリンク」を活用し、患者の診療情報を共有するなど連携強化を図る。 (※計画本文一部割愛)	<ul style="list-style-type: none"> 患者の逆紹介時等に積極的に「h-Anshin むこねっとシステム」, 「芦っこメディカルリンク」を活用し、連携強化を図った。 h-Anshin むこねっとシステム利用件数 29 年度 274 件 (前年比 227 件増加) 芦っこメディカルリンク利用件数 29 年度 14 件 (前年比 10 件増加)

II 市民に提供する診療機能の向上に向けての取組

取組項目	計画内容	取組内容・効果等
1 診療事業 (3) 質の高い医療の提供 (P. 10)	⑤ 超高齢社会への対応 高齢者に多くみられる疾患(がん, 骨そしょう症, 肺炎, 認知症, 循環器疾患等)に対する診療内容の充実を図るとともに在宅医療について研究する。 各種老健施設及び地域の在宅医療を担う開業医の後方支援病院として連携強化を図り, 在宅患者の救急受入れを積極的に行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ロコモティブシンドローム¹患者を中心としたリハビリ外来から, 運動能力, 呼吸, 嚥下に不安を持つ高齢者を広く集患する「高齢者リハビリ外来」を新設(平成 29 年度下半期より運用開始) 在宅患者急変時の受入れ体制について, 開業医訪問時に再周知を行った。これに伴い, 在宅支援診療所を中心とした連携医療機関からの救急入院目的の紹介が増加。 29 年度 1,010 件(前年比 200 件増加) 高齢者に多くみられる疾患をテーマにした公開講座の実施 「健やかな老後を目指して」(4 月実施) 「高齢者と骨折」(6 月実施) 「超高齢化時代の心不全を考える」(12 月実施)
1 診療事業 (4) 病院に期待される機能の発揮 (P. 11)	① 地域医療への貢献 1) 紹介率・逆紹介率向上への取組 地域において必要とされる医療を的確に実施するため, 地域連携クリティカルパス実施件数の	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率については 41.6%であり, 前年より 0.6 ポイント増加したものの, 目標値の 50%には未達成となった。当院への紹介件数は 6,654 件であり, 前年に比べ 653 件の増加となった。主に内科, 画像検査目的の紹介が増加となった。

¹ ロコモティブシンドローム(運動器症候群)は骨, 関節, 軟骨, 椎間板, 筋肉といった運動器のいずれか, あるいは複数に障害が起こり, 「立つ」, 「歩く」といった機能が低下している状態のこと。

<p>1 診療事業 (4) 病院に期待される機能の発揮 (P. 11～12)</p>	<p>増加や紹介率・逆紹介率の向上など地域医療機関との連携強化を図るとともに、地域医療の向上に積極的に取り組む。 紹介率、逆紹介率については、地域医療支援病院の承認基準である紹介率 50%、逆紹介率 70%を目標とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 逆紹介率の向上は本年度の課題であり、診療局部長会において主に逆紹介の推進について協議を行った。併せて、診療情報提供料の適正な算定、返書チェックの強化等に取り組んだ結果、逆紹介率は76.9%と前年に比べ21.8ポイントの増加となった。
	<p>① 地域医療への貢献 2) 在宅復帰への取組 地域のかかりつけ医、連携病院、介護老健施設及び地域包括支援センター等と連携強化を進めるとともに、入院患者の生活状況等を早期に把握するため、地域連携室に退院支援に精通した看護師、社会福祉士を配置し、患者一人一人に最適な在宅ケアが提供できるよう取組を行う (※計画本文一部割愛)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携室において入院早期より退院困難な患者の抽出を実施。H29年度は全退院患者の37.8%に介入支援を行った(前年比1.2ポイント増加)。転帰先は概ね在宅、施設への再入所であり、在宅医療を担う開業医や訪問看護師、ケアマネージャーとの連携に引き続き努めた。 在宅復帰率は96.3%であり、目標値の90%及び7対1入院基本料の要件80%を達成した。
	<p>② 兵庫県保健医療計画における5事業への取組 1) 救急医療 引き続き内科二次救急体制を24時間365日堅持し、小児救急体制、外科系救急体制及び消化器内視鏡救急体制の拡充を図る。特に外科系救急においては、外科の体制の整備を行い、救急受入日の拡充等を進め、最終的には24時間365日の実施を目指す。また、救急車搬送において、市外へ流出している救急患者を当院にて受け入れていく。 (※計画本文一部割愛)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外科系救急を5月より週3日体制(火～木曜日)へ拡充。平成30年4月より24時間365日実施できるよう体制整備に向け取り組む。 当院への救急搬送件数の増加に向け、芦屋市消防本部との定例会を実施し、円滑な救急受け入れに向けての取組を実施。
	<p>4) 小児(救急)医療 芦屋市内唯一の小児入院医療機関として、小児救急を含めた地域の小児科医療を支援していくとともに、腎臓疾患の診療及び学習支援外来などの特色のある外来診療にも引き続き取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援外来の受診者数の増加 29年度490件(前年比42件増加)

<p>1 診療事業 (4) 病院に期待される機能の発揮 (P. 13～14)</p>	<p>③ 兵庫県保健医療計画における5疾病への取組</p> <p>1) がん対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診・人間ドックの充実 ・がん予防診療（ピロリ菌外来・肝炎ウイルス対策） ・低侵襲手術（上部・下部消化管内視鏡下手術，腹腔鏡下手術，胸腔鏡下手術）の拡充 ・外来・入院化学療法 ・がん緩和ケア ・がんに関する知識の啓発 ・兵庫県がん地域連携パスの活用 ・がん診療連携協議会幹事会への参加，各種事業への協力，地域診療連携の推進 ・他の医療機関との連携による放射線治療の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間ドック，各種がん検診受診者数の増加 人間ドック 1,195件（前年比82件増加） がん検診 5,873件（前年比389件増加） ・がん症例手術の増加 29年度 94件（前年比26件増加） ・外科の乳腺専門外来について，開業医等を中心に広報強化を実施。乳腺専門外来受診者数の増加に伴い，乳がん手術が増加。 29年度 61件（前年比24件増加） ・外来化学療法の増加 29年度 665件（前年比418件増加） ・緩和ケア医師の確保（医師2名体制を維持）【再掲】 ・がんフォーラム開催（平成29年9月2日） 400名参加【再掲】 ・休日がん検診の実施（平成29年9月24日・平成30年2月18日）91名受診
	<p>3) 循環器疾患への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患（高血圧・動脈硬化・心筋梗塞）の診断・治療 ・下肢動脈末梢血管造影と下肢動脈形成術 ・徐脈性不整脈に対する診断・治療 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師，心不全看護認定看護師等により構成される心不全チーム²を発足し，心不全の急性病態の早期改善，再入院予防に向けた支援を実施。 ・地域の医療従事者を対象にした「心不全フォーラム」の開催（7月・11月） ・外科専門外来として下肢静脈瘤外来を実施 29年度181名受診
	<p>4) 生活習慣病対策の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病対策（教育入院・糖尿病教室） ・糖尿病合併症（循環器・神経・腎臓・眼底）の早期発見・診断・治療 ・循環器疾患（高血圧・動脈硬化・心筋梗塞）の診断・治療 ・脂質異常症の診断・治療 ・睡眠時無呼吸症候群の診断・治療 ・慢性閉塞性肺疾患（COPD）の診断・治療 	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時無呼吸症候群検査及びCPAP³管理の増加 簡易PSG検査⁴，一泊PSG検査数 29年度84件（前年比39件増加） CPAP管理件数 29年度492件（前年比125件増加） ・糖尿病教室の継続実施【再掲】

² 慢性心不全患者の病態悪化を防ぐためには，多職種による支援が重要であり，当院では医師，慢性心不全看護認定看護師，理学療法士，管理栄養士，薬剤師，MSWにより心不全チームを構成している。

³ CPAP（シーパップ）は睡眠時無呼吸症候群の治療に使用する装置であり，鼻に装着したマスクから空気を送りこむことによって，咽頭の組織を押し開き，鼻でスムーズに呼吸をすることができるようにする。

⁴ PSG検査（終夜睡眠ポリグラフ検査）は夜間睡眠中の身体の状態を装着した電極を通じて測定する検査であり，睡眠障害や睡眠呼吸障害などの確定診断に実施する検査

<p>1 診療事業</p> <p>(4) 病院に期待される機能の発揮 (P. 14)</p>	<p>5) 認知症合併患者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症看護認定看護師，認知症ケア専門士の活用 ・ 医師，認知症看護認定看護師，精神保健福祉士等により構成された認知症ケアチームの設置 ・ 芦屋市認知症初期集中支援チームとの連携による積極的な救急患者受入 ・ 外来診療における軽度認知障害（MCI）の早期発見 ・ 芦屋市高齢介護課，地域包括支援センターとの連携 ・ 認知症，早期診断に関する知識の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアチーム⁵加算の算定要件を満たした為施設基準届出を行い，4月より算定開始。 認知症ケアチーム加算算定件数 2,812件 ・ 脳疾患予防外来の実施 入院予定の認知症合併患者に対し，入院後，早期に認知症ケアチームが介入できることを目的に，週1回の外来を7月より実施。平成29年度受診者数は133名であった。脳疾患予防外来には医師の補助的役割として言語聴覚士が介入し，認知症の中核症状（記憶障害，見当識障害，視覚認知障害など）に対する認知機能評価を実施するなど質向上に向け取り組んだ。
	<p>④ 外科系手術の拡充</p> <p>外科系救急の体制整備，外科系疾患の患者受入を強化することで外科系手術件数の増加を目指す。</p> <p>また，効率的な手術室稼働が出来るよう麻酔科医の増員及び手術室等のスタッフの充実を図り，外科系手術の増加を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総手術件数が増加し，特に外科，産婦人科，内科，整形外科において増加となった。 29年度2,361件（前年比238件増加）
	<p>⑤ 産婦人科医療の拡充</p> <p>日本産科婦人科内視鏡学会の認定研修施設として，専門的知識が必要な女性泌尿器疾患（骨盤臓器脱や尿失禁など），高度な技術を必要とする腹腔鏡下手術に注力するとともに，婦人科腫瘍及び更年期婦人疾患にも対応していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦人科医（腹腔鏡技術認定医）1名増員（4月） 【再掲】 ・ 婦人科系総手術件数の増加 29年度438件（前年比117件増加） ・ 婦人科系良性疾患，骨盤臓器脱等の手術目的の紹介増に向け，開業医訪問を積極的に実施。 ・ 外来における骨盤底筋トレーニング講座の新設。 （甲南女子大学理学療法学科との共同実施） ・ 市の広報番組（CATV）にて周産期ネットワークについて特集を企画し，放送（6月前半）。

⁵ 認知症ケアチームは，認知症ケアに係る専門知識を有した多職種からなるチームであり，当院では医師，認知症看護認定看護師，臨床心理士，理学療法士，精神福祉士により構成している。

<p>1 診療事業 (4) 病院に期待される機能の発揮 (P. 15)</p>	<p>⑥ 整形外科医療の拡充</p> <p>人工関節センターを平成 28 年 10 月に設置し、高齢者の疾患として増加が見込まれる変形性ひざ関節症の治療に専門的に対応している。</p> <p>また、外傷・転倒による骨折等の救急患者の診断、治療に対応し、術後の診療についてはリハビリテーション科と一体となって取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整形外科医 1 名増員 (7 月) 【再掲】 ・ 理学療法士 1 名増員 (4 月) 【再掲】 ・ 地域の医療従事者を対象にした「整形外科病診連携セミナー in 芦屋」を開催 (7 月) ・ 一般整形外科手術の増加 29 年度 316 件 (前年比 47 件増加) ・ 救急受入の増加 29 年度 185 件 (前年比 92 件増加)
<p>3 教育研修事業 (1) 質の高い医療従事者の育成・確保 (P. 16)</p>	<p>① 質の高い医師の育成</p> <p>初期臨床研修プログラムに基づき、質の高い研修を実施して良質な医師の育成を行う。 (※計画本文一部割愛)</p> <p>② 質の高い看護師の育成</p> <p>全看護師の技術及び意識向上に資するよう、専門看護師、認定看護師等の採用及び資格取得を推進し、看護の質の向上を図る。 (※計画本文一部割愛)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研修医を 9 名確保。今年度より初期研修医の受入枠を年間 2 名から 3 名へ変更。後期研修医も 2 名から 4 名へ採用を増加した。 ・ 3 名の看護師が、新たに認定看護師資格 (手術看護・感染管理・がん化学療法看護) を取得。皮膚・排泄ケア認定看護師の増員 (1 名) に向けて教育課程を受講。
<p>3 教育研修事業 (2) 各種検診業務の充実・市民への疾病予防の啓発 (P. 17)</p>	<p>疾病の早期発見、早期治療を促進するため、人間ドック、各種がん検診、特定健診等の受診者数増加に向けてホームページ等の広報強化に取り組む。</p> <p>また、地域住民を対象とした「がんフォーラム」や公開講座、糖尿病教室などを定期的に開催し、疾病予防の啓発活動に積極的に貢献する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間ドック受診者数の増加 【再掲】 29 年度 1,195 件 (前年比 82 件増加) ・ 特定健診受診者数の増加 29 年度 611 件 (前年比 143 件増加) ・ 各種がん検診受診者数の増加 【再掲】 29 年度 5,873 件 (前年比 389 件増加) ・ がんフォーラム開催 (平成 29 年 9 月 2 日) 400 名参加 【再掲】 ・ 公開講座、糖尿病教室の継続実施 【再掲】 ・ 休日特定健診の実施 (平成 29 年 11 月 12 日) 30 名受診

Ⅲ 業務運営効率化への取組

取組項目	計画内容	取組内容・効果等
<p>1 効果的な業務運営体制 (2) 人材確保 (P. 18)</p>	<p>医療を取り巻く状況の変化に応じ柔軟に対応できるよう、任期付職員の活用も含め、幅広い年齢層から良質な人材の確保に取り組む。確保する職種については、医療需要に応じて柔軟に対応する。</p> <p>医師の確保については、医師事務作業補助者による積極的な事務負担軽減や学会参加支援等の労働環境の充実により離職防止を図る。</p> <p>また、看護師については、新人看護師への教育の充実に努めるとともに、認定看護師等の資格取得支援などにより当院でスキルアップできることを通して仕事のやりがいを高め、離職防止を図る。</p>	<p>【医師職】 ※すべて【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> 副病院長として整形外科医 1 名増員（7 月） 緩和ケアに精通した医師を任期付職員として 1 名採用（8 月）、精神科医を 1 名採用（10 月）し、常勤 2 名体制を維持。 産婦人科医（腹腔鏡技術認定医）1 名増員（4 月） <p>【看護職】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年より 6 名減少している状況。平成 30 年度採用に向け 14 名の採用予定者を確保した。 <p>【コメディカル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理学療法士 1 名増員（4 月）【再掲】 <p>【事務職】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局部門の体制強化を目的に、医療専門事務職 3 名採用（10 月）
<p>2 業務運営の見直しや効率化による収支改善 (3) 業務運営コストの節減等 (P. 20～P. 21)</p>	<p>①業務運営コストの削減 1) 材料費 同種同効医薬品の整理など、さらなる使用医薬品の標準化を推進し、調達方法及び対象品目等の見直しを行い、物流一元化の評価及び検証を実施するなどにより薬品費及び診療材料費等の材料費比率の増加の抑制を図る。（※計画本文一部割愛）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 診療材料費の削減に向けて、使用材料の変更や仕入単価の削減について、診療材料納品業者と定期的な協議を実施。29 年度において約 980 万円の費用削減に繋がった。 ジェネリック医薬品の使用率向上 29 年度 88.3%（前年比 18.8%増加）
	<p>②医療資源の有効活用 1) 医療機器の効率的な利用の促進 医療機器の効率的な使用に努め、臨床工学技士による集中管理及びメンテナンスを実施し、稼働率の向上を図る。</p> <p>また、他の医療機関からの共同利用を推進し、CT, MRI の高額医療機器の利用増加を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 開業医等からの放射線画像（CT・MRI・DXA 等）検査紹介の増加 29 年度 1,749 件（前年比 136 件増加）

IV 収支計画及び資金計画

計画初年度のため、収支計画への追加・修正はなし

V その他業務運営に関する取組

取組項目	計画内容	取組内容・効果等
1 広報に関する事項 (P. 23)	当院の使命, 果たしている役割・業務等について, 広く市民の理解が得られるよう診療内容をわかりやすくタイムリーに発信するなど積極的な広報に努める。また, ホームページだけではなくサンテレビ文字データ放送の「まちナビ」やCATV等の多様な媒体を活用した発信方法により広報を展開する。	<ul style="list-style-type: none">市民向け広報誌「Hope Plus」等の定期的な広報物の発行に加え, 広報あしや(芦屋病院特集号)の発行, CATVでの「周産期ネットワーク」「外科専門外来」特集の放送を実施。

資料 6

平成29年度決算の収支状況

(単位 千円)

項 目		28 年 度		29 年 度		対前年度決算 増減率(%)
		予算	決算	予算	決算見込	
収	医 業 収 益	4,524,845	4,511,809	4,504,663	4,588,290	101.7
	入院収益	2,855,116	2,860,903	2,818,675	2,901,009	101.4
	外来収益	1,020,595	1,023,199	1,045,012	1,057,044	103.3
	室料差額収益	237,308	221,358	232,922	222,906	100.7
	一般会計負担金	258,167	258,167	255,986	255,986	99.2
	その他医業収益	153,659	148,182	152,068	151,345	102.1
益	医 業 外 収 益	394,034	394,361	366,571	367,612	93.2
	一般会計負担金補助金	311,247	311,247	281,173	281,173	90.3
	その他医業外収益	82,787	83,114	85,398	86,439	104.0
	特 別 利 益	1,000	967	1,000	2,996	309.8
	収 益 合 計	4,919,879	4,907,137	4,872,234	4,958,898	101.1
費	医 業 費 用	5,193,731	4,964,626	5,326,015	5,165,719	104.1
	給 与 費	2,913,336	2,844,142	3,052,506	3,015,101	106.0
	材 料 費	878,830	815,160	863,172	808,808	99.2
	委 託 料	511,573	472,506	537,027	487,724	103.2
	減価償却費	614,681	615,274	606,011	607,402	98.7
	その他医業費用	275,311	217,544	267,299	246,684	113.4
	医 業 外 費 用	161,050	224,026	155,810	218,833	97.7
	支払利息	110,054	108,361	104,797	103,677	95.7
	その他医業外費用	50,996	115,665	51,013	115,156	99.6
	特 別 損 失	30,000	10,544	30,000	19,709	186.9
予 備 費	30,000	0	30,000	0	0.0	
	費 用 合 計	5,414,781	5,199,196	5,541,825	5,404,261	103.9
	純 損 益	△ 494,902	△ 292,059	△ 669,591	△ 445,363	

※平成28・29年度予算は補正予算後の数値です。

医業損益	△ 668,886	△ 452,817	△ 821,352	△ 577,429
医業収支比率	87.1	90.9	84.6	88.8
経常損益	△ 435,902	△ 282,482	△ 610,591	△ 428,650
経常収支比率	91.9	94.6	88.9	92.0

※医業損益：医業収益－医業費用

※医業収支比率：(医業収益／医業費用)×100

※経常損益：(医業収益＋医業外収益)－(医業費用＋医業外費用)

※経常収支比率：((医業収益＋医業外収益)÷(医業費用＋医業外費用))×100

資料 7

施設基準 届出一覧

平成30年3月時点

基本診療料		
名称	届出日	備考
一般病棟入院基本料（7対1）	平成20年09月	
臨床研修病院入院診療加算1（基幹型）	平成16年07月	
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	平成22年04月	
診療録管理体制加算2	平成29年04月	
医師事務作業補助体制加算1（30対1）	平成29年10月	基準変更（加算2辞退のため）
急性期看護補助体制加算（50対1）	平成23年01月	
療養環境加算	平成27年07月	
重症者等療養環境特別加算	平成22年07月	
無菌治療室管理加算	平成24年08月	
栄養サポートチーム加算	平成29年05月	
医療安全対策加算1	平成20年04月	
感染防止対策加算1	平成24年05月	
感染防止対策地域連携加算	平成26年04月	
患者サポート体制充実加算	平成24年04月	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	平成29年04月	
呼吸ケアチーム加算	平成26年04月	
病棟薬剤業務実施加算1	平成24年04月	
データ提出加算2 ロ	平成24年10月	
退院支援加算2	平成28年11月	
認知証ケア加算1	平成29年04月	
小児入院医療管理料5	平成26年12月	
緩和ケア病棟入院料	平成24年08月	
緩和ケア診療加算	平成29年11月	新規（再取得）
短期滞在手術等基本料2	平成26年04月	

<削除項目>

名称	辞退日	備考
医師事務作業補助体制加算2（25対1）	平成29年10月	従事者要件を満たさない為

施設基準 届出一覧

平成30年3月時点

特掲診療料		
名称	届出日	備考
糖尿病合併症管理料	平成26年08月	
がん性疼痛緩和指管理料	平成22年04月	
がん患者指管理料1, 2	平成26年04月	
がん患者指管理料3	平成28年04月	
糖尿病透析予防指管理料	平成29年02月	
夜間休日救急搬送医学管理料	平成24年04月	
ニコチン依存症管理料	平成29年07月	
開放型病院共同指導料（Ⅱ）	平成16年07月	
外来緩和ケア管理料	平成29年11月	新規（再取得）
がん治療連携計画策定料	平成27年07月	
肝炎インターフェロン治療計画料	平成22年04月	
薬剤管理指導料	平成22年04月	
地域連携診療計画加算	平成28年04月	
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	平成28年04月	
医療機器安全管理料 1	平成22年07月	
在宅患者訪問看護・指管理料	平成24年12月	
持続血糖測定器加算	平成26年04月	
造血器腫瘍遺伝子検査	平成24年11月	
H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	平成26年04月	
検体検査管理加算（Ⅱ）	平成20年04月	
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	平成24年09月	
胎児心エコー法	平成22年04月	
皮下連続式グルコース測定	平成26年10月	
小児食物アレルギー負荷検査	平成24年05月	
センチネルリンパ節生検（片側）	平成22年04月	
画像診断管理加算 2	平成22年08月	
C T 撮影及びMR I 撮影	平成24年04月	
冠動脈C T 撮影加算	平成20年04月	
大腸C T 撮影加算	平成24年04月	
心臓MR I 撮影加算	平成21年09月	
外来化学療法加算 1	平成20年04月	

施設基準 届出一覧

平成30年3月時点

特掲診療料		
名称	届出日	備考
無菌製剤処理料	平成20年05月	
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）	平成26年01月	
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成26年01月	
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成25年02月	
がん患者リハビリテーション料	平成25年03月	
処置の休日加算 1、時間外加算 1 及び深夜加算 1	平成26年04月	
乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算 1 又は乳がんセンチネルリンパ節加算 2 を算定する場合に限る。）	平成22年04月	
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	平成18年04月	
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成24年04月	
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術	平成20年04月	
手術の休日加算 1、時間外加算 1 及び深夜加算 1	平成26年04月	
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	平成26年04月	
輸血管理料Ⅱ	平成19年05月	
輸血適正使用加算	平成24年04月	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成24年09月	
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成26年04月	
麻酔管理料（Ⅰ）	平成27年03月	
認知療法・認知行動療法	平成29年11月	新規（再取得）
保険医療機関間の連携による病理診断	平成26年11月	
テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	平成23年04月	
テレパソロジーによる術中迅速細胞診	平成23年04月	

各種委員会活動状況

診療局部長会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 4. 27	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率・逆紹介率の状況について 直近の断診状況について 4月の開業医訪問の報告 特定検診等二次健診受診用の診療情報提供書について 医療機関向け広報誌「UP TO DATE」特別号の発行について 診療情報提供料の算定について
2	H29. 5. 25	<ul style="list-style-type: none"> 診療情報提供料の算定向上を目指して
3	H29. 6. 22	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率・逆紹介率の状況について 直近の断診状況について 当院を受診された患者のかかりつけ医チェックについて ご教授依頼について
4	H29. 9. 28	<ul style="list-style-type: none"> 直近の断診状況について 紹介率・逆紹介率の状況について
5	H29. 11. 30	<ul style="list-style-type: none"> 直近の断診状況について 紹介率・逆紹介率の状況について 入院患者のかかりつけ医の有無チェックについて
6	H30. 2. 5	<ul style="list-style-type: none"> 直近の断診状況について 紹介率・逆紹介率の状況について 開業医訪問について 第18回神戸市東灘区医師会 病診連携学術集談会の開催について

リスクマネジメント委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 4. 6	<ul style="list-style-type: none"> 各部署報告 院内暴言・暴力患者対策マニュアルについて レベル対応患者のレベル変更について 平成29年度医療安全管理委員会について
2	H29. 5. 12	<ul style="list-style-type: none"> 各部署報告 レベル対応患者のレベル変更について
3	H29. 6. 2	<ul style="list-style-type: none"> 各部署報告
4	H29. 7. 7	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いについて 各部署報告 診療困難な患者の対応について
5	H29. 8. 4	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いについて 各部署報告 改善事項について 糖尿病製剤の勉強会の開催について
6	H29. 9. 1	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いについて 各部署報告 レベル対応患者について
7	H29. 10. 6	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いについて 各部署報告
8	H29. 11. 10	<ul style="list-style-type: none"> 各部署報告 ヨード禁忌の患者対応について 電動車いす、シニアカーの病院内での運用について
9	H29. 12. 8	<ul style="list-style-type: none"> ヨード禁忌の患者対応について 電動車いすの病院内での運用について レベル対応患者について 各部署報告

リスクマネジメント委員会

	開催日	報告・協議事項
10	H30. 1. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨード禁忌等の患者対応について ・電動車いすの病院内での運用について ・各部署報告
11	H30. 2. 2	<ul style="list-style-type: none"> ・電動車いすの病院内での運用について ・各部署報告 ・持参薬について
12	H30. 3. 2	<ul style="list-style-type: none"> ・電動車いすの病院内での運用について ・抗糖尿病薬（ヒューマリンR注）の指示について ・各部署報告

感染対策委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 4. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・3月細菌動向報告 ・3月抗菌薬使用状況 ・3月感染動向報告 ・手術室より、手術部位感染について ・手術時手洗い後の培養検査結果について ・院内感染対策研修会の日程
2	H29. 5. 18	<ul style="list-style-type: none"> ・4月細菌動向報告 ・4月抗菌薬使用状況 ・4月感染動向報告 ・手術室より、手術部位感染について ・感染対策ニュースについて ・院内感染対策研修会の日程
3	H29. 6. 22	<ul style="list-style-type: none"> ・5月細菌動向報告 ・5月抗菌薬使用状況 ・5月感染動向報告 ・近畿厚生局の監査について ・感染対策ニュースについて ・手指衛生推進活動の取組 ・新入職員への小児ウイルス疾患ワクチンについて ・感染防止対策地域連携カンファレンスについて
4	H29. 7. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・6月細菌動向報告 ・6月抗菌薬使用状況 ・6月感染動向報告 ・感染対策ニュースについて ・手指衛生推進活動の取組 ・新入職員への小児ウイルス疾患ワクチンについて ・院内感染対策研修会について ・近畿厚生局の監査について
5	H29. 8. 17	<ul style="list-style-type: none"> ・7月細菌動向報告 ・7月抗菌薬使用状況 ・7月感染動向報告 ・委員会開催日程について ・感染対策ニュースについて ・手指衛生推進活動ポスターについて ・院内感染対策研修会について ・感染防止地域連携カンファレンスについて
6	H29. 9. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・8月細菌動向報告 ・8月抗菌薬使用状況 ・8月感染動向報告 ・委員会開催日程の変更について ・感染対策ニュースについて ・感染防止対策加算 I 施設間の相互評価日程について ・結核曝露者検診について ・感染防止 I - II 施設の地域連携カンファレンスについて

感染対策委員会

	開催日	報告・協議事項
7	H29. 10. 17	<ul style="list-style-type: none"> ・9月細菌動向報告 ・9月抗菌薬使用状況 ・9月感染動向報告 ・一部再利用していたディスポーサブル製品について ・滅菌物の取り扱いについて ・インフルエンザワクチンについて ・感染対策ニュースについて ・感染防止対策加算Ⅰ施設間の相互評価結果について
8	H29. 11. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・10月細菌動向報告 ・10月抗菌薬使用状況 ・10月感染動向報告 ・広域抗菌剤の使用量増加について ・感染対策ニュースについて ・院内感染対策研修会の開催結果について ・感染防止対策加算Ⅰ施設間の相互評価について
9	H29. 12. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・11月細菌動向報告 ・11月抗菌薬使用状況 ・11月感染動向報告 ・感染性胃腸炎について ・MRSA保有率の増加について ・感染対策ニュースについて ・感染防止対策加算Ⅰ-Ⅱカンファレンスについて ・結核曝露者検診結果について
10	H30. 1. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・12月細菌動向報告 ・12月抗菌薬使用状況 ・12月感染動向報告 ・感染対策ニュースについて ・感染症法届け出項目変更について ・感染防止対策加算Ⅰ-Ⅱカンファレンスについて ・インフルエンザワクチンの在庫について ・結核曝露者検診について
11	H30. 2. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・1月細菌動向報告 ・1月抗菌薬使用状況 ・1月感染動向報告 ・薬剤耐性菌、抗菌薬適正使用に関して ・感染防止対策加算について ・中途採用者の麻疹、風疹、ムンプス、水痘抗体価測定について
12	H30. 3. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・2月細菌動向報告 ・2月抗菌薬使用状況 ・2月感染動向報告 ・抗菌剤使用量の増加について ・院内感染対策研修会開催予定について ・中途採用者の小児ウイルスワクチン接種について

化学療法運営委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 4. 18	<ul style="list-style-type: none"> ・化学療法件数について
2	H29. 5. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・カイプロリス療法承認について
3	H29. 6. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・Kd療法承認について ・インフューザーポンプを使用した治療について
4	H29. 7. 18	<ul style="list-style-type: none"> ・化学療法件数について
5	H29. 8. 15	<ul style="list-style-type: none"> ・weeklyPTX療法承認について ・他社メーカーのインフューザーポンプ試用について

化学療法運営委員会

	開催日	報告・協議事項
6	H29. 9. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・R-GCD療法承認について ・外来・病棟合同カンファレンスの開催について
7	H29. 10. 17	<ul style="list-style-type: none"> ・他社メーカーのインフューザーポンプ試用について
8	H29. 11. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・化学療法件数について ・ジフォルタ療法承認について ・他社メーカーのインフューザーポンプ試用について ・入院日当日に化学療法を施行する際の入院時間について
9	H29. 12. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・化学療法件数について ・dose-denseTC療法、weekly nab-PTX療法承認について ・インフューザーポンプ使用時のルートについて
10	H30. 1. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・化学療法件数について ・インフューザーポンプ試用について ・化学療法室の運用について
11	H30. 2. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・化学療法件数について ・R-B療法、サイメリン療法、ザルトラップ+FOLFIRI療法承認について ・末梢が取りにくい患者について ・抗がん剤の輸液の統一について
12	H30. 3. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・化学療法件数について ・マイロターゲット療法、XELIRI療法、XELIRI+Bv療法承認について

褥瘡対策委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 6. 23	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度褥瘡管理報告 ・平成29年度委員会目標 ・褥瘡回診方法について ・被覆材の内容検討 ・各部署報告

救急医療推進委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 4. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋消防報告 ・芦屋病院報告
2	H29. 5. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋消防報告 ・芦屋病院報告
3	H29. 6. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋消防報告 ・芦屋病院報告
4	H29. 7. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋消防報告 ・芦屋病院報告
5	H29. 8. 18	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋消防報告 ・芦屋病院報告
6	H29. 9. 15	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋消防報告 ・芦屋病院報告
7	H29. 10. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋消防報告 ・芦屋病院報告
8	H29. 11. 17	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋消防報告 ・芦屋病院報告
9	H29. 12. 15	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋消防報告 ・芦屋病院報告
10	H30. 1. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋消防報告 ・芦屋病院報告

救急医療推進委員会

	開催日	報告・協議事項
11	H30. 2. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋消防報告 ・ 芦屋病院報告
12	H30. 3. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋消防報告 ・ 芦屋病院報告

チーム医療推進委員会 (NST：栄養サポートチーム)

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 3. 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体制・カンファレンス・ラウンドの仕組み ・ 対象患者の抽出方法 ・ NSTマニュアルの見直し ・ 経管栄養のための濃厚流動食の見直し ・ 排便コントロール「ラクチュロース」に関する情報提供

チーム医療推進委員会 (緩和ケアチーム)

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 4 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年4月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 ・ 症例カンファレンスについて ・ 2階病棟スクリーニングについて ・ 新規病棟リンクナース決定について ・ 平成28年度PCTのがん登録について
2	H29. 5 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年5月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 ・ 症例カンファレンスについて ・ 新規病棟リンクナースに向けたオリエンテーション実施について ・ 「慢性疼痛への取り組み」について
3	H29. 6 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年6月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 ・ 症例カンファレンスについて ・ 病棟リンクナースに向けたオリエンテーション実施について ・ 緩和ケアマニュアル改訂について ・ 西3階病棟のスクリーニングについて ・ 緩和医療学会について
4	H29. 7 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年7月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 ・ 症例カンファレンスについて ・ 第7回緩和IVR研究会の案内 ・ 新薬導入について
5	H29. 8 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年8月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 ・ 症例カンファレンスについて ・ 人生の最終段階における意志決定支援研修の案内
6	H29. 9 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年9月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 ・ 症例カンファレンスについて ・ デスカンファレンスについて ・ 栄養管理室のラウンド参加について
7	H29. 10 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年10月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 ・ 症例カンファレンスについて ・ デスカンファレンスについて ・ 大阪国際がんセンター理学療法士の見学対応について
8	H29. 11 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年11月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 ・ 緩和ケア診療加算算定開始について ・ 症例カンファレンスについて ・ 緩和ケアチームの名称変更について

チーム医療推進委員会（緩和ケアチーム）

	開催日	報告・協議事項
9	H29.12 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年12月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 緩和ケア診療加算算定件数 症例カンファレンスについて デスカンファレンスについて 緩和ケアチームの名称変更について
10	H30.1 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年1月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 緩和ケア診療加算算定件数 症例カンファレンスについて 明石市立市民病院緩和ケアチームの見学対応について 緩和ケアチームの名称変更について
11	H30.2 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年2月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 緩和ケア診療加算算定件数 症例カンファレンスについて 「いたみどめ調整入院」のパンフレット作成について
12	H30.3 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年3月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績 緩和ケア診療加算算定件数 症例カンファレンスについて 「いたみどめ調整入院」のクリニカルパス作成について

チーム医療推進委員会（足チーム）

	開催日	報告・協議事項
1	H29.6.23	<ul style="list-style-type: none"> 足チーム活動目的について 平成29年度活動計画について 各科報告
2	H29.9.21	<ul style="list-style-type: none"> 各科報告 DVT予防調査で低リスクである場合の弾性ソックス着用の必要性について PADマニュアルについて
3	H29.12.20	<ul style="list-style-type: none"> 各科報告 DVT予防説明について DVT予防対策マニュアル修正について 症例検討 PADマニュアルについて
4	H30.3.28	<ul style="list-style-type: none"> 各科報告 DVT予防説明書配布状況について DVT予防対策調査票再評価率について DVT予防対策マニュアル修正について PADマニュアルについて

予防医療推進委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29.9.1	<ul style="list-style-type: none"> 休日がん検診について ホスピタルフェスタでの特定健診の実施について
2	H29.11.17	<ul style="list-style-type: none"> 休日がん検診について 内臓脂肪測定検査について

診療報酬・DPC対策委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29.4.24	<ul style="list-style-type: none"> 査定状況について DPCコーディングについての検討 算定実績について

診療報酬・DPC対策委員会

	開催日	報告・協議事項
2	H29. 5. 22	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について
3	H29. 6. 26	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について
4	H29. 7. 24	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について
5	H29. 8. 28	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について
6	H29. 9. 26	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について
7	H29. 10. 23	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について ・皮膚欠損用創傷被覆剤と衛生材料について
8	H29. 11. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について ・平成30年度診療報酬改定情報について
9	H29. 12. 25	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について ・患者からの診療報酬に関する疑義について
10	H30. 1. 22	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について ・平成30年度診療報酬改定情報について
11	H30. 2. 26	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について
12	H30. 3. 26	<ul style="list-style-type: none"> ・査定状況について ・DPCコーディングについての検討 ・算定実績について

薬事委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 4. 11	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急購入薬の報告 ・緊急に院外専用登録した薬剤の報告 ・院内、院外の新規採用薬の検討 ・院内削除薬の検討 ・期限切れの薬剤の報告
2	H29. 6. 13	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急購入薬の報告 ・緊急に院外専用登録した薬剤の報告 ・院内、院外の新規採用薬の検討 ・ジェネリック薬品の検討 ・院内削除薬の検討 ・期限切れ薬剤の報告 ・後発医薬品の取り扱いについて

薬事委員会

開催日		報告・協議事項
3	H29. 8. 8	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急購入薬の報告 ・緊急に院外専用登録した薬剤報告 ・院内、院外の新規採用薬の検討 ・ジェネリック薬品の検討 ・院内削除薬の検討 ・期限切れ薬剤の報告
4	H29. 10. 10	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急購入薬の報告 ・緊急に院外専用登録した薬剤の報告 ・院内の新規採用薬の検討 ・ジェネリック薬品の検討 ・院内削除薬の検討 ・期限切れ薬剤の報告
5	H29. 12. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急購入薬の報告 ・院内、院外の新規採用薬の検討 ・ジェネリック薬品の検討 ・院内削除薬の検討 ・期限切れ薬剤の報告
6	H30. 2. 13	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急購入薬の報告 ・院内、院外の新規採用薬の検討 ・ジェネリック薬品の検討 ・院内削除薬の検討 ・期限切れ薬剤の報告

クリニカルパス推進委員会

開催日		報告・協議事項
1	H29. 6. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・パス適応患者集計 ・パス中止件数 ・アウトカム未評価件数 ・新規パスについて ・改訂パスとその修正内容 ・今年度の目標 ・薬剤、検査の変更に伴うパスの修正について ・パス運用中における不具合について ・パス作成の促進 ・重複したパスについて ・バリエーションの定義について
2	H29. 8. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・パス適応患者集計 ・パス中止件数 ・アウトカム未評価件数について ・改訂パスとその修正内容について ・パス作成の促進 ・重複したパスについて ・バリエーションの定義について ・クリニカルパス作成時の注意事項 ・マニュアルの修正
3	H29. 10. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・パス適応患者集計 ・パス中止件数 ・アウトカム未評価件数について ・新規パスについて ・削除パスについて ・改訂パスとその修正内容について ・パス作成予定分の進捗状況 ・東4階病棟パス適応率について

クリニカルパス推進委員会

	開催日	報告・協議事項
4	H29.12.18	<ul style="list-style-type: none"> ・パス適応患者集計 ・パス中止件数 ・アウトカム未評価件数について ・新規パスについて ・改訂パスとその修正内容について ・パス作成予定分の進捗状況 ・不眠、不穏時の指示について
5	H30.2.19	<ul style="list-style-type: none"> ・パス適応患者集計 ・パス中止件数 ・アウトカム未評価件数について ・新規パスについて ・改訂パスとその修正内容について ・パス作成予定分の進捗状況 ・今後のパス作成の分担

診療システム化推進委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29.6.9	<ul style="list-style-type: none"> ・サマリーの記載率、完成率について ・カルテ廃棄について ・薬剤、検査マスタの変更について ・入院診療計画書について ・電子カルテシステムバージョンアップについて
2	H29.8.18	<ul style="list-style-type: none"> ・サマリーの記載率、完成率について ・電子カルテ上の病名表示について ・紙カルテ等の貸し出しについて ・電子カルテから発行する文章の日付表示について

手術室・中材運営委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29.4.17	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度術前手洗い評価について ・手術件数増加のための各科の取組について ・手術の無駄削減について ・術前マーキングについて ・ハイポアルコール廃止について ・オートクレープの点検実施について ・ユニフォーム、シューズの不足について
2	H29.5.15	<ul style="list-style-type: none"> ・ラパロ鉗子類無料点検のお知らせ ・平成29年度上半期マニフェスト目標について ・麻酔科医師休職による緊急対策について ・手術機器の不具合について ・イメージの定期点検実施について ・眼科術前カンファレンスの開催について
3	H29.6.19	<ul style="list-style-type: none"> ・麻酔科医師退職に伴う手術室枠変更について ・手術機器の定期点検実施について ・自主回収対象商品について ・手術機器の不具合について ・アネステーション依頼後のキャンセルについて ・麻酔科応援医師への患者情報提供について ・薬事委員会での決定事項について
4	H29.7.24	<ul style="list-style-type: none"> ・麻酔科応援医師の患者情報収集について ・平成29年度上半期マニフェスト目標の中間評価 ・手術機器故障および修理について ・毎週金曜日の麻酔科医師決定について ・夏休み期間の手術予定について ・ベリプラスト・ラコリールの取り扱いについて

手術室・中材運営委員会

	開催日	報告・協議事項
5	H29. 8. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・術前サマリの記載率、各科の現状について ・術前マーキングについて ・喘息吸入薬の持参について ・麻酔科医師不在の事例について ・手術機器の不具合について
6	H29. 9. 25	<ul style="list-style-type: none"> ・一部再利用していたディスプレイ製品について ・当日入院の内服薬について ・手術機器の修理、購入、点検について ・執刀医、器械出し看護師へのアンケート調査実施について
7	H29. 10. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・予定手術の麻酔依存について ・手術予定患者の入院時間について ・ホルムアルデヒド作業環境測定実施について ・手術室内の害虫について ・当日入院の内服薬について
8	H29. 11. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・災害避難訓練実施について ・手術室内の害虫駆除について ・手術室シューズの管理方法の変更について ・夜間休日緊急手術について ・年末年始の手術室・中材スタッフの勤務について ・手術室患者満足度調査開始について ・手術機器の不具合について
9	H29. 12. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・災害避難訓練実施について ・1月からの手術室枠の運用について ・更衣室ロッカーについて ・手術機器の定期点検実施について ・年末年始の手術室スタッフの人員配置について
10	H30. 1. 15	<ul style="list-style-type: none"> ・DVT予防について ・術前内服薬について ・オンコールについて ・2月からの手術室運営委員会開催日程について ・術後帰室するまでのモニタリングについて ・男女更衣室のロッカー追加について ・1月以降の火曜午後枠の変更について ・眼科手術日拡充について
11	H30. 2. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・手術室間申し送りマニュアルの変更案について ・外科の当日入院手術の手術同意書について ・手術室補修工事について ・作業環境測定について ・木曜午後の眼科手術枠について
12	H30. 3. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・4月以降の手術室枠運用について ・第2回医師・看護師アンケート調査について ・手術機器の修理について

給食業務調整委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 5. 10	<ul style="list-style-type: none"> ・非日常報告 ・年間計画について ・食事療養費のコスト漏れ対策について
2	H29. 7. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・非日常報告 ・年間計画の現況報告 ・配膳開始時間について ・食事療養費のコスト漏れ対策について
3	H29. 9. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・非日常報告 ・年間計画の現況報告 ・食事療養費のコスト漏れ対策について

給食業務調整委員会

	開催日	報告・協議事項
4	H29. 11. 8	<ul style="list-style-type: none"> ・非日常報告 ・年間計画の現況報告 ・入院患者への配膳時の服装について ・お茶ゼリーのむせについて ・給食費を超える嚥下調整食品や栄養補助食品について
5	H30. 1. 17	<ul style="list-style-type: none"> ・非日常報告 ・年間計画の現況報告 ・入院当日の食事開始時間について ・苦手な食べ物に対する取り扱いについて
6	H30. 3. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・非日常報告 ・年間計画の現況報告 ・4月以降の糖尿病食の炭水化物比率について ・食器の入れ替えについて ・平成30年度診療報酬改定について ・嗜好に対応した食事提供について

学術研修委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 12. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年年間購入図書について ・臨時購入図書について ・院内研修の開催周知方法について

質・環境向上委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 7. 3	<ul style="list-style-type: none"> ・病院機能評価（3rd：G Ver. 1.0）確認について ・平成29年度患者満足度調査の実施について
2	H29. 8. 10	<ul style="list-style-type: none"> ・病院機能評価（3rd：G Ver. 1.0）確認について ・平成29年度患者満足度調査の実施について
3	H29. 9. 14	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度患者満足度調査のアンケート内容について
4	H29. 10. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度患者満足度調査のアンケート内容について ・平成29年度患者満足度調査の実施期間について

放射線科運営委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 4. 24	<ul style="list-style-type: none"> ・手術室での撮影手順マニュアルについて ・ジェネリック造影剤採用について ・teloss stress撮影の申し合わせ事項 ・3Dワークステーション設置について
2	H29. 5. 22	<ul style="list-style-type: none"> ・CTによる内臓脂肪測定検査の実施計画 ・同日でのMRI検査と他検査の予約時間について ・災害時のマニュアル作成について
3	H29. 6. 26	<ul style="list-style-type: none"> ・MRI装置の更新について ・人間ドック検査項目へCTによる内臓脂肪測定検査追加について ・造影剤が血液データに及ぼす影響について ・CT検査での3部位（胸、上腹部、骨盤部）撮影依頼について ・グルコース測定器導入について
4	H29. 7. 24	<ul style="list-style-type: none"> ・MRI装置の更新について ・造影CT、MRI検査前の腎機能簡易測定器の一時運用について ・胸部CT検査オーダー時の注意事項について

放射線科運営委員会

	開催日	報告・協議事項
5	H29. 8. 28	<ul style="list-style-type: none"> 線量計の校正について 手術室の電子カルテへの3Dワークステーションシステム導入について CT検査における3部位依頼の問題点について MRI対応ペースメーカーの取り扱いについて
6	H29. 9. 27	<ul style="list-style-type: none"> PACS取り込み時の運用について 平成30年度医療機器要求について CT、MRI検査の効率よりオーダー方法について
7	H29. 10. 30	<ul style="list-style-type: none"> 植え込み型ループレコーダILRの施行について POCT対応クレアチニン分析装置の必要性について
8	H29. 11. 27	<ul style="list-style-type: none"> CT内臓脂肪測定検査実施に向けて 簡易型クレアチニン分析装置導入に向けて 兵庫県立西宮病院MRI装置入れ替え時の検査受け入れについて 検査受付時に、受付用紙やリストバンドがなかった事例について
9	H29. 12. 21	<ul style="list-style-type: none"> 3Dワークステーションの4社の最終比較 平成29年度医療機器更新要求について 患者アンケート調査を受けて 当日患者が持参したCD-Rの取り込みについて
10	H30. 1. 30	<ul style="list-style-type: none"> 3Dワークステーションの更新機器について X線TV装置の更新機器について 当日患者が持参したCD-Rの取り込みについて CD-R取り込みオーダーについて 造影CT、MRI枠の増設について ジェネリック造影剤の変更について
11	H30. 2. 27	<ul style="list-style-type: none"> 日立社製X線TV装置の導入スケジュールについて CR装置メンテナンスについて CT装置メンテナンスについて
12	H30. 3. 27	<ul style="list-style-type: none"> 日立社製X線TV装置の導入について 富士3Dワークステーション (VINCENT) の設置について 放射線科読影医師の変更に伴う運営の変更について Stress撮影用器具 (Telos) の運用について

安全衛生委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 4. 17	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度B型肝炎ワクチン3回目の接種について 平成29年度職員定期健康診断について 平成29年3月医師の当直回数について 平成29年2月、3月の超過勤務状況について
2	H29. 5. 22	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度B型肝炎ワクチン3回目の接種について 平成29年度職員定期健康診断について 平成29年4月医師の当直回数について 安全衛生管理者の設置について
3	H29. 6. 19	<ul style="list-style-type: none"> 麻疹、風疹、ムンプスワクチンの接種について 平成29年度職員定期健康診断について 平成29年5月医師の当直回数について 平成29年4月、5月の超過勤務状況について
4	H29. 7. 10	<ul style="list-style-type: none"> 麻疹、風疹、ムンプスワクチンの接種について 平成29年度職員定期健康診断について
5	H29. 8. 14	<ul style="list-style-type: none"> 麻疹、風疹、ムンプスワクチンの接種について 平成29年度職員定期健康診断について 平成29年度合同安全衛生委員会 (健康管理研修会) の開催について 特定健康診断の実施について 平成29年6月医師の当直回数について 平成29年6月の超過勤務状況について

安全衛生委員会

	開催日	報告・協議事項
6	H29. 9. 11	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度合同安全衛生委員会の報告 平成29年度職員定期健康診断について 結核患者接触者検診の実施について 特定健康診断の実施について 各種ワクチン接種日程案について 平成29年7月医師の当直回数について 平成29年7月の超過勤務状況について
7	H29. 10. 16	<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会事務局及び委員の交代について B型肝炎ワクチン、インフルエンザワクチン接種について 平成29年度職員定期健康診断について 衛生管理者について 平成29年8月、9月医師の当直回数について 平成29年8月、9月の超過勤務状況について
8	H29. 11. 20	<ul style="list-style-type: none"> B型肝炎ワクチン接種（2回目）について 平成29年度職員定期健康診断について 衛生管理者について 平成29年10月医師の当直回数について 平成29年10月の超過勤務状況について
9	H29. 12. 18	<ul style="list-style-type: none"> 深夜業務従事者健診の実施について 平成29年度職員定期健康診断について メンタルヘルス支援について 平成29年11月医師の当直回数について 平成29年11月の超過勤務状況について
10	H30. 1. 15	<ul style="list-style-type: none"> 深夜業務従事者健診の実施について 平成29年度職員定期健康診断（追加分）について ハラスメント研修の実施について 平成29年12月医師の当直回数について 平成29年12月の超過勤務状況について
11	H30. 2. 19	<ul style="list-style-type: none"> 放射線業務従事者健診及び有機溶剤使用者健診の実施について 平成29年度職員定期健康診断（追加分）について 平成30年1月医師の当直回数について 平成30年1月の超過勤務状況について
12	H30. 3. 26	<ul style="list-style-type: none"> 放射線業務従事者健診及び有機溶剤使用者健診の実施について 小児ウイルスワクチン接種について 平成30年2月医師の当直回数について 平成30年2月の超過勤務状況について

医療ガス安全管理委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 10. 5	<ul style="list-style-type: none"> 点検結果報告 監督責任者、実施責任者選出 窒素ボンベマニユホールドについて

輸血療法委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 5. 18	<ul style="list-style-type: none"> 3月、4月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC, 廃棄率など） 副作用報告 検査科より
2	H29. 7. 20	<ul style="list-style-type: none"> 5月、6月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC, 廃棄率など） 副作用報告 検査科より
3	H29. 9. 21	<ul style="list-style-type: none"> 7月、8月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC廃棄率など） 副作用報告 検査科より

輸血療法委員会

	開催日	報告・協議事項
4	H29. 11. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・9月、10月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC廃棄率など） ・副作用報告 ・検査科より
5	H30. 1. 18	<ul style="list-style-type: none"> ・11月、12月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC廃棄率など） ・副作用報告 ・検査科より
6	H30. 3. 15	<ul style="list-style-type: none"> ・1月、2月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC廃棄率など） ・副作用報告 ・検査科より

臨床研修管理委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 5. 29	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修医のスケジュールについて ・平成30年度初期研修医採用試験について
2	H29. 7. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度初期研修医採用試験について ・委員会要綱について ・研修スケジュールの見直しについて
3	H29. 9. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度初期研修医採用試験について ・委員会要綱について ・研修スケジュールの見直しについて
4	H29. 10. 26	<ul style="list-style-type: none"> ・研修プログラムの変更について ・説明会の申し込みについて ・新専門医制度情報のホームページ掲載について ・研修医の現況について ・マッチング結果について ・平成30年度兵庫医科大学病院の研修医受け入れについて ・CPC開催について
5	H30. 2. 8	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修病院説明会について ・平成30年度研修スケジュール及び平成30年度兵庫医科大学病院の研修医受け入れについて ・市立芦屋病院初期臨床研修プログラムについて ・指導医体制について ・当直体制について ・研修医の現況、修了について
6	H30. 3. 8	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪大学説明会について ・平成30年度初期臨床研修医スケジュールについて ・研修医の現況について ・初期臨床研修医2年目の修了について ・初期臨床研修医の救急当直について ・今後の市立芦屋病院臨床研修プログラムについて

臨床検査適正化委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 6. 8	<ul style="list-style-type: none"> ・検体検査管理加算請求状況について ・内部精度管理について ・肝炎ウイルス陽性患者に対する消化器内科への受診手段について
2	H29. 12. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・検体検査管理加算請求状況について ・B型肝炎及びC型肝炎ウイルス感染者の消化器内科への紹介について ・ZTT、TTTにおける院内実施項目としての必要性について ・免疫抑制、化学療法実施時のHBc抗体、HBs抗体検査の自動依頼について

医師職等処遇改善検討委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 3. 22	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度医師職負担軽減計画達成状況について 平成29年度看護職負担軽減計画達成状況について 平成30年度医師職負担軽減および看護職負担軽減の計画策定について

糖尿病教室

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 4. 14	<ul style="list-style-type: none"> 4月以降の教室について 糖尿病療養講座について 年間計画設置場所について
2	H29. 5. 12	<ul style="list-style-type: none"> 5月以降の教室について 糖尿病療養講座について 年間計画設置場所について
3	H29. 6. 9	<ul style="list-style-type: none"> 6月以降の教室について 糖尿病療養講座について
4	H29. 9. 8	<ul style="list-style-type: none"> 9月以降の教室について フリースタイルリブレについて 糖尿病療養講座について 24時間尿Na排泄量などについて 患者会イベントについて
5	H29. 10. 13	<ul style="list-style-type: none"> 10月以降の教室について 糖尿病療養講座について 患者会イベントについて ホスピタルフェスタについて
6	H29. 11. 10	<ul style="list-style-type: none"> 11月以降の教室について 患者会イベントについて ホスピタルフェスタについて
7	H29. 12. 8	<ul style="list-style-type: none"> 12月以降の教室について 2018年の予定について 研修会のご案内について 10月職員向け糖尿病療養講座アンケート結果について
8	H30. 1. 12	<ul style="list-style-type: none"> 1月以降の教室について 2018年の予定について 患者会について FGM検査について
9	H30. 2. 9	<ul style="list-style-type: none"> 2月以降の教室について 2018年の予定について POCT機器への変更について 患者会について
10	H30. 3. 9	<ul style="list-style-type: none"> 3月以降の教室について 2018年の予定について

院内開業調整委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H29. 6. 26	<ul style="list-style-type: none"> 土曜日の退院支援について 感染情報の注意喚起
2	H29. 9. 4	<ul style="list-style-type: none"> 歯科に関する紹介について 返書（診療情報提供書）について 未収で帰られる患者について
3	H29. 12. 4	<ul style="list-style-type: none"> 退院時の対応について 年末年始の休診日について

院内開業調整委員会

	開催日	報告・協議事項
4	H30.3.5	<ul style="list-style-type: none">・造影CT検査について・尿流量検査について・協議事項の検討結果の報告方法について

資料 9

講座等活動実績

【市民向け講座等】

がんフォーラム

項 目	開催日	開催場所	参加人数
がんフォーラム2017 「がんと再生医療」	9月2日	ルナ・ホール	400名

ホスピタルフェスタ

項 目	開催日	開催場所	参加人数
あしやホスピタルフェスタ2017	11月12日	市立芦屋病院	600名

公開講座

項 目	開催日	開催場所	参加人数
健やかな老後を目指して	4月8日	芦屋市民センター	31名
下肢静脈瘤のお話	5月13日		97名
高齢者と骨折 ～転倒予防運動を交えて～	6月3日		75名
出張！糖尿病教室～糖尿病と神経障害～	7月1日		56名
肝機能障害と言われたら	8月5日		41名
知っておきたい、ホルモンと生理の話	10月7日		15名
禁煙外来へようこそ ～何歳から止めても遅くない～	11月4日		7名
超高齢化時代の心不全を考える	12月2日		55名
緩和ケアをめぐる最近の動き	1月6日		40名
痛みをがまんしていませんか？ ～首と肩の痛みに対する治療を中心に～	2月3日		67名
痛みの種類とその対処法	3月3日		61名

糖尿病教室

項 目	開催日	開催場所	参加人数
糖尿病治療・療養について	4月14日	市立芦屋病院	36名
食事療法の基本！食品交換表を中心に 糖尿病の薬物療法について	5月12日		54名
自己血糖測定について 運動療法 季節ごとの注意点 夏！ 熱中症対策について	6月9日		41名
出張！糖尿病教室～糖尿病と神経障害～	7月1日	芦屋市民センター	56名
糖尿病と眼の病気 食事療法 たのしく外食！間食！	9月8日	市立芦屋病院	35名
運動療法 季節ごとの注意点 冬！ 食事療法 早めの準備・・・年末年始の食事の工夫	10月13日		26名
世界糖尿病デー記念ミニイベント 糖尿病の最新治療	11月10日		41名

糖尿病教室

項 目	開催日	開催場所	参加人数
シックデイのケアについて シックデイの食事 糖尿病の検査	12月8日	市立芦屋病院	26名
糖尿病性腎症 腎臓の機能にあわせた運動	1月12日		28名
糖尿病患者さんの皮膚の病気 自分でできるスキンケア・専門家にまかせたいスキンケア 糖尿病の薬物療法について（注射薬）	2月9日		37名
糖尿病総まとめ	3月9日		38名

院内コンサート

項 目	開催日	開催場所
ほのぼのコンサート	月1回	市立芦屋病院
マチネーコンサート	月1回	
講堂コンサート	6月11日 9月10日 12月17日 3月11日	

その他

項 目	開催日	開催場所
芦屋さくらまつり	4月1日 4月2日	芦屋川付近
休日がん検診	9月24日 2月18日	市立芦屋病院
休日特定健診	11月12日	市立芦屋病院
子育て支援活動「あい・あいるーむ」「カンガルー」	月1回	市内集会所ほか

【医療従事者向け講座等（地域医療機関含む）】

項 目	開催日	開催場所	参加人数
第13回芦屋緩和ケア研修会～芦屋を緩和ケアの中心に～	1月25日	市立芦屋病院	84名

医療安全研修会

項 目	開催日	開催場所	参加人数
医療事故再発防止に向けた提言第一号 ～医療事故調査制度の設立から1年6ヶ月～	6月16日 6月30日	市立芦屋病院	252名
フィッシュ！哲学の実践	8月3日		133名
チームSTEPPS	11月24日		140名
多様化する薬物治療と医薬品安全管理	2月22日		141名
チームSTEPPS	3月14日		28名

院内感染対策研修会

項 目	開催日	開催場所	参加人数
薬剤耐性菌対策	7月14日 7月20日	市立芦屋病院	284名
インフルエンザ！あなたはどうか対応する	11月6日 11月16日		279名
できていますか？手指衛生5つのタイミング	12月22日		78名

地域連携研修会

項 目	開催日	開催場所
整形外科病診連携セミナー in 芦屋	7月12日	ホテル竹園
心不全フォーラム	7月20日 11月30日	ホテル竹園 酒蔵通り煉瓦館
第1回CPC 「急性骨髄性白血病（MDS overt AML）の治療中に 大量の咯血にて死亡した1例」	1月23日	市立芦屋病院
第18回神戸市東灘区医師会 病診連携学術集談会	2月17日	東灘区医師会館
第19回芦屋市地域医療連絡会	3月31日	ホテル竹園

その他

項 目	開催日	開催場所	参加人数
消防訓練	12月14日	市立芦屋病院	47名
ハラスメント研修	1月31日		38名
平成30年度診療報酬改定について	3月22日 3月27日 3月29日		161名

【各種広報活動】

広報あしや 掲載コラム

内 容	掲載日
足のむくみ、瘤の原因は下肢静脈瘤かもしれません	5月15日
臨時号「芦屋病院特集」	6月15日
自分の足で歩き続けるために必要な2つのこと	7月15日
「禁煙」一緒にがんばりましょう！	9月15日
介護のコツ	11月15日
悩ましい咳の診断	1月15日
ポリファーマシーのお話	3月15日

芦屋市広報番組「あしやトライアングル」(J-COMケーブルテレビ)

内 容	放送日
特集「市立芦屋病院で快適な産後を ～周産期ネットワークをご存じですか～」	6月前半
お知らせ「がんフォーラム2017」	8月後半
お知らせ「休日がん検診のご案内」	9月前半
お知らせ「あしやホスピタルフェスタ2017」	10月後半
特集「外科専門外来で、早期発見・早期治療！」	12月前半
お知らせ「年末年始の診療体制」	12月後半
お知らせ「休日がん検診のご案内」	2月前半

市立芦屋病院だより 「HOPE plus」

内 容	掲載日
<ul style="list-style-type: none"> ・新任Drのご紹介 ・外科のご紹介「一般消化器外科を中心に安全で良質な手術の提供に努めています」 ・産婦人科のご紹介「女性泌尿器疾患と良性腫瘍に対する腹腔鏡手術に力を注いでいます」 	4月1日
<ul style="list-style-type: none"> ・副病院長就任のごあいさつ ・新任Drのご紹介 ・血液・腫瘍内科のご紹介 ・緩和ケア病棟より患者さんのメッセージをお届けします ・教えてDr! 「実はコワイ歯周病について」 	8月1日
<ul style="list-style-type: none"> ・新任Drのご紹介 ・小児科紹介「市内唯一の小児入院医療機関として、地域の小児科医療を支援します」 ・眼科紹介「白内障手術や外眼部手術に対応!患者さんの安全を考え、1泊入院にて実施しています」 ・認定看護師紹介 ・あしやホスピタルフェスタ2017のご案内 	10月1日
<ul style="list-style-type: none"> ・事業管理者新年のあいさつ「医療・介護の節目の年」 ・新任Drのご紹介 ・足のむくみ、瘤の原因は下肢静脈瘤かもしれません! ・「セカンドオピニオン外来」をご存じですか? ・検診のお知らせ 	1月4日

市立芦屋病院 地域連携室だより 「UP TO DATE」

内 容	掲載日
特別号「医師・病棟・コメディカルスタッフ紹介」	10月発行

研究発表・論文等

芦屋クリニカルカンファレンス

開催日時	座長	発表者	演題	会場
2017. 4. 25	竹田 晃	佐々木 絢子	肝嚢胞による閉塞性黄疸の一例	芦屋市医師会館
		中嶋 真一郎	これからの緩和ケア	
2017. 5. 30	水谷 伸	國見 宜史	超高齢者に対する巨大肝細胞癌の一例	
		山根 和彦	急性発症下と思われるPBCの一例	
2017. 6. 27	松梨 達郎	瀬川 浩平	自家移植後の治療抵抗性濾胞性リンパ腫に対しブレンツキシマプベドチンが奏功した一例	
		高倉 竜彦	歩行困難を主訴に来院されたハイリスク2型糖尿病の一例	
2017. 7. 25	紺屋 浩之	松浪 周平	腹部動脈瘤術後に胆嚢壊死・穿孔を来した一例	
		山根 和彦	低身長低体重で早期空腹時低血糖を契機に汎下垂体機能低下症を疑った一例	
2017. 9. 26	西本 哲郎	西本 哲郎	症状緩和目的で入院となった高齢悪性リンパ腫患者に対して化学療法を行った一例	
		名和 巖	化膿性関節炎を疑ったシェーグレン症候群の一症例	
2017. 10. 31	木村 俊夫	國見 宜史	十二指腸憩室内結石による憩室炎の一例	
		宮田 明未	腹痛を主訴に受診し、婦人科疾患と診断した症例の検討	
2017. 11. 28	森田 拓	安倍 瑞穂	鏡視下手術で摘出した胃内異物の一例	
		森田 拓	ヒルシュスプルング病類縁疾患に合併した腎症の一例	
2018. 1. 30	北川 泰生	山根 和彦	三叉神経領域の感覚脱失を認めたウイルス性髄膜炎の一例	
		高橋 典子 伊阪 大二 北川 泰生	内科的治療により軽快し得た感染性心内膜炎の二症例	
2018. 2. 27	三方 彰喜	松浪 周平	術前化学療法で組織学的CRが得られた進行胃癌の一例	
		今井 教仁	干渉波電気刺激療法を併用した嚥下訓練により機能改善が得られた症例	

開催日時	座長	発表者	演題	会場
2018. 3. 27	西浦 哲雄	山下 由紀子	メトトレキセート関連 リンパ増殖性疾患の一例	芦屋市医師会館
		池田 譲太	MRI対応ペースメーカーの基礎知識 ～土壇場であわてないように～	

医局論文発表
内科

著 者	題 名	雑 誌 名	巻 号
常田和宏 芳川篤志 藤田真吾 常田芙佐 伊藤直彦 山本研人 檀 倫子 沖田考平 乾 由明 高原充佳 岩橋博見 紅林昌吾 紺屋浩之 大塚章人 半田伸夫 福井威志 松島洋之 渡辺申明 河田純男	2型糖尿病患者の発癌に関する検討	糖尿病	60巻Suppl.1 PageS-244
澤田かおる 加隈愛子 田村宏 上山涼子 西岡 彩 間瀬浩史 神崎曉慶 松谷 聡 片岡政子 紺屋浩之	当院における2型糖尿病患者の体成分の傾向、2型糖尿病患者の発癌に関する検討	糖尿病	60巻Suppl.1 PageS-315
間瀬浩史 神崎曉慶 西岡 彩 松谷 聡 矢野雄三 角田 拓 松尾俊宏 大森直輝 田村 宏 上山涼子 富島智子 倉留久隆 上田一仁 田村直美 出光由佳 番田由紀子 森田美治代 松若昌代 加隈愛子 澤田かおる 臼井健郎 片岡政子 紺屋浩之	7種のDPP-4阻害薬における臨床的効果、安全性の比較検討について	糖尿病	60巻Suppl.1 PageS-358

著 者	題 名	雑 誌 名	巻 号
田村 宏 神崎曉慶 大森直輝 宮本俊朗 上田一仁 片岡政子 松谷 聡 西岡 彩 間瀬浩史 澤田かおる 上山涼子 番田由紀子 紺屋浩之	サルコペニアを合併した2型糖尿病患者の最大筋力を決定する関連要因	糖尿病	60巻Suppl. 1 PageS-387
神崎曉慶 松谷 聡 西岡 彩 間瀬浩史 中島恵美 片岡政子 紺屋浩之 竹田 晃 西浦哲雄	同一山系の登山が原因と推測された、日本紅斑熱の2例：疫学的データと対応策の考察	日本内科学会雑誌	106巻臨時増刊号 Page189
松谷 聡 間瀬浩史 神崎曉慶 西岡 彩 矢野雄三 角田 拓 松尾俊宏 大森直輝 田村宏 上山涼子 富島智子 倉留久隆 上田一仁 田村直美 出光由佳 番田由紀子 森田美治代 松若昌代 加隈愛子 澤田かおる 臼井健郎 片岡政子 紺屋浩之	SAPを新規導入した1型糖尿病の一例	糖尿病	60巻Suppl. 1 PageS-453
木俣米一 神崎曉慶 間瀬浩史 西岡 彩 松谷 聡 片岡政子 紺屋浩之	糖尿病ケトアシドーシス（DKA）に乳酸アシドーシスが合併した1例	芦屋市医師会会報	226号Page5-6
河本 悠 西岡 彩 松谷 聡 神崎曉慶 角田 拓 片岡政子 紺屋浩之	認知症を合併した高齢糖尿病症例の治療について	芦屋市医師会会報	226号Page7-9 226号Page11-15

著 者	題 名	雑 誌 名	巻 号
佐々木絢子 神崎暁慶 間瀬浩史 西岡 彩 松谷 聡 片岡政子 紺屋浩之	高齢者の低ナトリウム血症の原因と 対処	芦屋市医師会会報	226号Page7-9
田村 宏 名和 巖 宮本俊朗 紺屋浩之	レジスタンス運動が2型糖尿病患者 の骨格筋力とインスリン抵抗性に与 える効果の検討	理学療法	34巻10号
澤田かおる 加隈愛子 西山奈々子 神谷裕子 幡野 舞 紺屋浩之	緩和ケア患者の栄養ケア～患者の目 標を多職種で支える～	日本病態栄養学会誌	21巻Suppl. PageS-200
kanzaki A Natsuaki M Matsutani S Mase K Nakajima E Kataoka S Konya H Takeda A Nishiura T Takada N	Two cases of Japanese spotted fever infected in Rokko mountain near urban area of southern Hyogo Prefecture	Journal of Dermatology	doi: 10.1111/1346- 8138.14208
臼井健郎 池田公一郎 竹村忠晴 石井久美子 竹田晃 西浦哲雄 廣田誠一	refeeding 症候群による急性肝障害 の一例	兵庫県医師会雑誌	第60巻 第1号

外科

著 者	題 名	雑 誌 名	巻 号
浦野尚美 三方彰喜 水谷伸	小腸癌と虫垂癌の重複癌の一例	日本外科系連合学会誌	42巻1号201-211
浦野尚美 三方彰喜 水谷伸	超高齢者101歳のイレウスの手術一症 例	日本外科系連合学会誌	42巻5号789-794
佐々木亨 田守登茂治 浦野尚美 村上雅一 三方彰喜 水谷伸	全結腸型壊死型虚血性大腸炎の一例	日本臨床外科学会雑誌	78巻5号1014-1018

医局学会発表

内科

発表者	演題	学会名	月日
神崎暁慶 松谷 聡 西岡 彩 間瀬浩史 中島恵美 片岡政子 紺屋浩之 竹田 晃 西浦哲雄	同一山系の登山が原因と推測された、 日本紅斑熱の2例：疫学的データと対 応策の考察	第114回日本内科学会総会	2017. 4. 14-16
常田和宏 芳川篤志 藤田真吾 常田芙佐 伊藤直彦 山本研人 檀 倫子 沖田考平 乾 由明 高原充佳 岩橋博見 紅林昌吾 紺屋浩之 大塚章人 半田伸夫 福井威志 松島洋之 渡辺伸明 河田純男	2型糖尿病患者の発癌に関する検討	第60回日本糖尿病学会年次 学術集会	2017. 5. 18-20
澤田かおる 加隈愛子 田村宏 上山涼子 西岡 彩 間瀬浩史 神崎暁慶 松谷 聡 片岡政子 紺屋浩之	当院における2型糖尿病患者の体成分の 傾向	第60回日本糖尿病学会年次 学術集会	2017. 5. 18-20
田村 宏 神崎暁慶 大森直輝 宮本俊朗 上田一仁 片岡政子 松谷 聡 西岡 彩 間瀬浩史 澤田かおる 上山涼子 番田由紀子 紺屋浩之	サルコペニアを合併した2型糖尿病患者 の最大筋力を決定する関連要因	第60回日本糖尿病学会年次 学術集会	2017. 5. 18-20

発 表 者	演 題	学 会 名	月 日
間瀬浩史 神崎暁慶 西岡 彩 松谷 聡 矢野雄三 角田 拓 松尾俊宏 大森直輝 田村 宏 上山涼子 富島智子 倉留久隆 上田一仁 田村直美 出光由佳 番田由紀子 森田美治代 松若昌代 加隈愛子 澤田かおる 臼井健郎 片岡政子 紺屋浩之	7種のDPP-4阻害薬における臨床的効果, 安全性の比較検討について	第60回日本糖尿病学会年次学術集会	2017. 5. 18-20
松谷 聡 間瀬浩史 神崎暁慶 西岡 彩 矢野雄三 角田 拓 松尾俊宏 大森直輝 田村宏 上山涼子 富島智子 倉留久隆 上田一仁 田村直美 出光由佳 番田由紀子 森田美治代 松若昌代 加隈愛子 澤田かおる 臼井健郎 片岡政子 紺屋浩之	SAPを新規導入した1型糖尿病の一例	第60回日本糖尿病学会年次学術集会	2017. 5. 18-20
佐々木絢子 臼井健郎 池田公一郎 竹村忠晴 石井久美子 竹田晃 西浦哲雄	多彩な自己免疫異常を呈し亜急性劇症化を来した高齢発症自己免疫性肝炎の一例	内科学会 近畿地方会	2017. 7. 1

発表者	演題	学会名	月 日
山根和彦 臼井健郎 池田公一郎 竹村忠晴 石井久美子 竹田晃 西浦哲雄	急性発症原発性胆汁性胆管炎と考えられた一発症例	内科学会 近畿地方会	2017. 9. 16
佐々木絢子 臼井健郎 池田公一郎 竹村忠晴 石井久美子 竹田晃	高度の閉塞性黄疸を呈した巨大単純性肝嚢胞の一例	内科学会 近畿地方会	2017. 9. 23
神崎暁慶 角谷 学 山根和彦 助永匡比古 間瀬浩史 片岡政子 紺屋浩之	低身長児におけるACTH 欠損症へのヒドロコルチゾン補充療法がもつQOL 改善効果の一例検討	第18回日本内分泌学会近畿支部学術集会	2017. 11. 4
紺屋浩之	一般演題「二次性糖尿病・その他 3」	第54回日本糖尿病学会近畿地方会	2017. 11. 11
片岡政子	一般演題「チーム医療 4」	第54回日本糖尿病学会近畿地方会	2017. 11. 11
間瀬浩史 助永匡比古 神崎暁慶 片岡政子 紺屋浩之	緩和ケアにおける糖尿病診療	第54回日本糖尿病学会近畿地方会	2017. 11. 11
片岡政子 今井教仁 神崎暁憲 紺屋浩之 竹田 晃 西浦哲雄	高齢糖尿病患者における早期認知障害検出のための神経心理検査実施の有用性について	第36回日本認知症学会学術集会	2017. 11. 24-26
山根和彦 助永匡比古 間瀬浩史 神崎暁慶 片岡政子 紺屋浩之 竹田 晃 西浦哲雄	低身長、低体重児で早朝空腹時低血糖を契機に汎下垂体機能低下症を疑った1例	第218回日本内科学会近畿地方会	2017. 12. 2
紺屋浩之	内分泌・代謝1	第218回日本内科学会近畿地方会	2017. 12. 2
澤田かおる 加隈愛子 西山奈々子 神谷裕子 幡野 舞 紺屋浩之	緩和ケア患者の栄養ケア～患者の目標を多職種で支える～	第21回日本病態栄養学会年次学術集会	2018. 1. 12-14

外科

発表者	演 題	学 会 名	月 日
佐々木亨 松浪周平 田守登茂治 浦野尚美 村上雅一 三方彰喜 水谷伸	突発性S状結腸穿孔の一例	第200回近畿外科学会	2017. 9. 2
佐々木亨 田守登茂治 浦野尚美 村上雅一 三方彰喜 水谷伸	Pacitaxel+Bevacizumab療法が奏功した 高齢者局所進行乳癌の一例	第79回日本臨床外科学会	2017. 11. 23-25
田守登茂治 浦野尚美 佐々木亨 村上雅一 三方彰喜 水谷伸	当院における超高齢者の腹部外科手術 の検討	第79回日本臨床外科学会	2017. 11. 23
田守登茂治 浦野尚美 佐々木亨 村上雅一 三方彰喜 水谷伸	当院における鼠径ヘルニアの手術 TAPP vs 前方アプローチ	第79回日本内視鏡外科学会	2017. 12. 7
田守登茂治 浦野尚美 佐々木亨 村上雅一 三方彰喜 水谷伸	当院における下部消化管手術に対する SSI防止対策の徹底化とその成果	第79回日本臨床外科学会	2017. 11. 23-25
松浪周平	「今、増え続ける大腸癌」～その現状 と治療法	胃癌学会	2018. 3. 7-9

産婦人科

発表者	演 題	学 会 名	月 日
錢 鴻武 宮田明未	広汎性子宮頸部摘出術後妊娠の周産期 転帰に関する検討	第69回日本産科婦人科学会 学術講演会	2017. 4. 13-16
木村俊夫	骨盤臓器脱に対し、ポリフォームを用 いた経膣メッシュの治療成績	第105回日本泌尿器科学科 総会	2017. 4. 21-24
宮田明未	当院におけるリスク低減卵巣卵管切除 術の経験	第59回日本婦人科腫瘍学会 学術講演会	2017. 7. 27-29
木村俊夫	TVMを安全に行なうために。カダバーに よる女性の骨盤内臨床解剖	第19回日本女性骨盤底医 学会	2017. 7. 29-30
木村俊夫 錢 鴻武 宮田明未	NTRを併施した腹腔鏡下“minimal mesh” 仙骨脛固定術ーメッシュトラブルを回 避するための提言ー	第57回日本産婦人科内視鏡 学会	2017. 9. 7-9

発表者	演題	学会名	月日
木村俊夫 錢 鴻武 宮田明未	カダバーによるTVMと膣管支持に関する臨床解剖	第40回日本産婦人科手術学会	2017. 11. 25-26

研究会および院外講演会

内科

発表者	演題	講座名	月日
間瀬浩史 助永匡比古 神崎暁慶 片岡政子 紺屋浩之 中嶋真一郎	糖尿病と緩和ケア	DM Frontier forum	2017. 4. 28
紺屋浩之	7種のDPP-4阻害薬における臨床的効果安全性の比較検討について	第9回Research Brush Up Conference	2017. 5. 13
片岡政子	認知症のこれからの取り組みについて	これからの認知症診療と地域連携を考える会	2017. 5. 18
紺屋浩之	食後高血糖の治療について	キッセイアドバイザリーミーティング	2017. 6. 5
紺屋浩之	最適な糖尿病治療とは？	興和創薬株式会社社内講演会	2017. 6. 12
紺屋浩之	1型糖尿病治療について	第15回近畿SMBG・糖尿病セミナー	2017. 6. 24
紺屋浩之	出張！糖尿病教室～糖尿病と健康寿命	芦屋病院公開講座	2017. 7. 1
安倍瑞穂 臼井健郎 池田公一郎 竹村忠晴 石井久美子 竹田晃	急性肝障害が先行した薬剤性過敏症症候群 DIHS の一例	南阪神肝疾患病診連携セミナー	2017. 7. 12
佐々木絢子 臼井健郎 池田公一郎 竹村忠晴 石井久美子 竹田晃	高度の閉塞性黄疸を呈した巨大単純性肝嚢胞の一例	兵庫県消化器病研究会	2017. 7. 16
紺屋浩之	脂質異常症治療について	芦屋市医師会学術講演会	2017. 7. 21
紺屋浩之	インスリン製剤・GLP-1製剤について	大日本住友製薬株式会社糖尿病関連社内研修会	2017. 9. 29
紺屋浩之	SGLT2阻害薬の可能性を考える	芦屋市医師会学術講演会	2017. 10. 20
紺屋浩之	脳卒中の外科治療と慢性期薬物治療	脳卒中講演会	2017. 10. 25
紺屋浩之	緩和ケアにおける糖尿病診療	第10回Research Brush Up Conference	2017. 11. 2

発表者	演題	講座名	月日
間瀬浩史	禁煙外来にようこそ～何歳から止めても遅くない～	芦屋病院公開講座	2017. 11. 4
紺屋浩之	上手な病院のかかり方	ひだまり喫茶LSAイベント	2017. 11. 9
臼井健郎	肝硬変診療と最近の話題	芦屋ファーマシーセミナー	2017. 11. 19
紺屋浩之	糖尿病治療について	イニシク発売一周年記念講演会	2017. 11. 30
紺屋浩之	糖尿病治療について	芦屋市医師会学術講演会	2017. 12. 8
紺屋浩之	メタボやフレイルに対応した糖尿病治療	協和発酵キリン株式会社社内勉強会	2017. 12. 11
紺屋浩之	糖尿病治療の新しい展開	西宮市医師会内科医会学術講演会	2018. 1. 24
臼井健郎	肝臓がんについて	芦屋市民大学	2018. 2. 20
片岡政子	芦屋市の認知症治療の現状	宅・かかりつけ医育成研修会	2018. 2. 1
紺屋浩之	糖尿病治療について	Diabetes Network Seminar 2018 in Kobe	2018. 2. 24
間瀬浩史	SGLT2阻害薬の使用経験	iabetes Network Seminar 2018 in Kobe	2018. 2. 24
紺屋浩之	糖尿病治療について	糖尿病エキスパートミーティング	2018. 2. 28
紺屋浩之	糖尿病治療戦略	大正富山医薬品株式会社学術研修センター勉強会	2018. 3. 5
紺屋浩之	糖尿病治療について	第16回西宮糖尿病フォーラム	2018. 3. 8
西岡 彩	当院におけるGLP1受容体作動薬の使用経験	第16回西宮糖尿病フォーラム	2018. 3. 8
紺屋浩之	今どきの糖尿病治療	第18回阪神糖尿病診療フォーラム	2018. 3. 10
紺屋浩之	糖尿病治療について	第2回Pregnancy Diabetes Forum	2018. 3. 29
紺屋浩之	糖尿病治療について	第19回芦屋市地域医療連絡会	2018. 3. 31

院内講演会

内科

発表者	演題	講座名	月 日
助永匡比古	糖尿病教室にようこそ	糖尿病教室	2017. 4. 14
紺屋浩之	栄養管理の重要性と投与経路の選択	NST院内研修会	2017. 9. 13
紺屋浩之	糖尿病治療 Up to Date	糖尿病教室	2017. 11. 12
西岡 彩 神崎曉慶	糖尿病腎症	糖尿病教室	2018. 1. 12
安倍瑞穂 國見宜史 山根和彦 西本哲郎 紺屋浩之 西浦哲雄 木原多佳子	急性骨髄性白血病(MDS overt AML)の治療中に大量の咯血にて死亡した1例	CPC(臨床病理検討会)	2018. 1. 23

薬剤科 論文発表等

著者	題名	雑誌名	巻号
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり52. 薬剤師にとっての臨床倫理	大阪府薬雑誌	Vol. 68, No. 4 (2017)
岡本禎晃	E. オピオイドの適正使用に向けた医療体制について 3. 薬剤師によるオピオイド鎮痛薬服薬指導の実際	ペインクリニック	Vol. 38 (2017. 4) 別冊春号
Nakagawa S Kume N	Pharmacy Practice in Japan	The Canadian journal of hospital pharmacy	Vol. 70, No. 3 (2017)
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 53. 緩和医療薬学会10周年	大阪府薬雑誌	Vol. 68, No. 5 (2017)
岡本禎晃	芦屋市における薬に関する地域連携の取り組み	全国自治体病院協議会雑誌	56巻第5号
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 54. 遺族の思い J-HOPE3研究	大阪府薬雑誌	Vol. 68, No. 6 (2017)
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 55. EAPC 2017の報告	大阪府薬雑誌	Vol. 68, No. 7 (2017)
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 56. オピオイド鎮痛薬からの離脱	大阪府薬雑誌	Vol. 68, No. 8 (2017)
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 57. The World Congress of Music Therapy 2017	大阪府薬雑誌	Vol. 68, No. 9 (2017)
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 58. ヒドロモルフォン	大阪府薬雑誌	Vol. 68, No. 10 (2017)
Niki K Okamoto Y Tabata Y Tsugane M Murata T Mizuki M Matsumura Y Takagi T Uejima E	A New Approach for Determining Short-Term, Objective Prognostic Predictive Methods for Terminal Cancer Patients Based on the Change Point of Laboratory Test Values.	J Palliat Med	Epub 2017 Nov 17. doi: 10.1089/jpm.2017.0233
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 59. オピオイド誘発性便秘	大阪府薬雑誌	Vol. 68, No. 11 (2017)
寺岡麗子 三宅真衣 伊藤真衣 塩野朋香 沼田千賀子 中山みずえ 岡本禎晃 平井みどり 湯谷玲子 北河修治 坂根	フィルムドレッシング材による1日1回型フェンタニルクエン酸塩経費吸収型製剤の半量投与	医療薬学	43巻12号Page671-679 (2017. 12)
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 60. 鎮痛薬減量プログラム	大阪府薬雑誌	Vol. 69, No. 12 (2017)

著 者	題 名	雑 誌 名	巻 号
中川左理 岡本禎晃 柴田政彦	ペインクリニック外来における帯状 疱疹関連通(ZAP)の実態調査と説明の 重要性	慢性疼痛	36巻1号Page79-82 (2017. 12)
高橋理智 森田達也 野里洵子 服部政治 上野博司 岡本禎晃 伊勢雄也 佐藤一樹 宮下光令 細川豊史	日本のがん疼痛とオピオイド量の真 実(第3回)日本のがん患者の疼痛の頻 度とPain Management Indexに関する メタ分析	緩和ケア	28巻1号Page042-049 (2018. 01)
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 61. 大切にされるということ	大阪府薬雑誌	Vol. 69, No. 1 (2018)
仁木一順 竹村美穂 北川響祐 清水瑠加 高橋侑里 幡生あすか 上島悦子	在宅医療における薬局薬剤師による バイタルサイン測定についての大阪 府の現状調査と課題の抽出	薬学雑誌	138巻2号Page243- 250(2018. 02)
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 62. オピオイドによる精神症状	大阪府薬雑誌	Vol. 69, No. 2 (2018)
Okamoto Y Morita T Tsuneto S Aoyama M Kizawa Y Shima Y Miyashita M	Bereaved Family Members' Perceptions of the Distressing Symptoms of Terminal Patients With Cancer.	Am J Hosp Palliat Care.	2018 Jan doi:10.1177/10499091 18765409. [Epub ahead of print]
Miyashita M Aoyama M Yoshida S Yamada Y Abe M Yanagihara K Shirado A Shutoh M Okamoto Y Hamano J Miyamoto A Nakahata M	The distress and benefit to bereaved family members of participating in a post- bereavement survey.	Jpn J Clin Oncol.	2018 Feb 1:48(2):135-143.
岡本禎晃	緩和ケアにおける薬剤師の関わり 50. 非がんの慢性疼痛 2	大阪府薬雑誌	Vol. 68, No. 3(2018)
佐藤純也 岡本禎晃 高橋寛名 八重樫学 的場元弘	入院患者の麻薬自己管理の実態調査 に関するアンケート調査	日本緩和医療薬学会雑 誌	Vol. 11:7-12(2018)

放射線科 論文発表等

著者	題名	雑誌名	巻号
松月久穂	GE DXA装置を活用した測定モードの違いによる測定数値の検討	GE today In Technology	Vol.50 July 2017
後藤博 阪本正行 松月久穂 木下真由美 長瀬大希 前田桃世	FPD搭載X線TV透視撮影装置の長尺システムの検討	兵庫県放射線技師会会誌3月号	Vol.77-③ March 2018

リハビリテーション科 論文発表等

著者	題名	雑誌名	巻号
田村宏 名和厳 宮本俊朗 紺屋浩之	レジスタンス運動が2型糖尿病患者の骨格筋力とインスリン抵抗性に与える効果の検討	理学療法	日本呼吸ケアリハビリテーション学会誌 Vol.27 No.1
田村宏 名和厳 清水憲政 柳良美 玉木彰 兪陽子	高齢期の誤嚥性肺炎に対する排痰援助の共有化と包括的アプローチの有用性	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	呼吸ケア第十五巻 十二号
田村宏 玉木彰	ハフティング手技について	呼吸器ケア	理学療法Vol.34 No.10

臨床検査科 論文発表等

著者	題名	雑誌名	巻号
上田 一仁	静物試料を分析するためのト・リ・セ・ツ	医療と検査機器・試薬	40巻3号2017
杉山 昌晃	新鮮血による自動白血球5分類・網赤血球比率の外部精度管理	臨床検査	61巻12号 p1511-1518

薬剤科 学会発表等

発表者	演 題	学 会 名	月 日
Okamoto Y Morita T Miyashita M Aoyama M Kitazawa Y Shima Y	What Are Distressing Symptoms of Terminal Cancer Patients for the Bereaved?	15th World Congress of the European Association of Palliative Care (EAPC)	18-20 May 2017
Niki K Okamoto Y Nakajima S Uejima E	Factor Influencing the Analgesic Effect of Acetaminophen Injected Intravenously in Japanese Patients with Cancer	15th World Congress of the European Association of Palliative Care (EAPC)	18-20 May 2017
岡本禎晃	最近の痛みの治療と抗がん剤投与中の心のケア	平成29年度 兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会共催研修会	2017. 5. 27
田中育子 橋本百世 角田延子 岡本禎晃	当院緩和ケア病棟における薬剤業務の実態調査	第11回日本緩和医療薬学学会年会	2017. 6. 2-4
辻田聡容 大垣孝文 中永かおり 多田章二 岡本禎晃	薬剤師によるスピリチュアルケアの啓発と実践	第11回日本緩和医療薬学学会年会	2017. 6. 2-4
朴聡美 寺岡麗子 岡本禎晃 中山みずえ 沼田千賀子	フェンタニル経皮吸収製剤を片面貼り付けした場合の貼付者による貼付面積の変動について	第11回日本緩和医療薬学学会年会	2017. 6. 2-4
高橋佳孝 浅田聖士 田中育子 岡本禎晃 中嶋真一郎 西本鉄郎 幡野舞 西浦哲雄 沼田千賀子	終末期がん患者におけるコルチコステロイドの使用目的と効果・副作用の調査研究（第2報）	第11回日本緩和医療薬学学会年会	2017. 6. 2-4
仁木一順 岡本禎晃 中嶋真一郎 幡野舞 上島悦子	がん性疼痛に対するアセトアミノフェン静注液の鎮痛効果の検討およびその効果に關与する因子の同定	第11回日本緩和医療薬学学会年会	2017. 6. 2-4
岡本禎晃	せん妄を有するがん患者に対して、ベンゾジアゼピン系薬を投与することや、オピオイドの変更（スイッチング）は推奨されるか？	第22回日本緩和医療学会学術大会	2017. 6. 23-24
幡野舞 岡本禎晃	緩和ケア病棟ボランティアの遺族会とグリーフケアへの意識調査	第22回日本緩和医療学会学術大会	2017. 6. 23-24

発表者	演題	学会名	月日
橋野陽子 加治佐直子 神谷裕子 遠藤千栄 江頭佐都美 金井菜穂子 中嶋真一郎 岡本禎晃	遺族会開催がスタッフに与える影響～ 初めての遺族会を経験して～	第22回日本緩和医療学会学術大会	2017. 6. 23-24
岡本禎晃	緩和ケアと薬剤師	神戸薬科大学同窓会兵庫県支部研究会	2017. 7. 2
中山みずえ	緩和ケアチーム自施設評価について～ 緩和ケアチームセルフチェックプログラム～	神戸薬科大学同窓会兵庫県支部研究会	2017. 7. 2
Okamoto Y Hori A Saji H	Comparison of Concerts Conducted by Music Therapists and Municipal Hospital Medical Staff	The 15th World Congress of Music Therapy	4-8 May 2017
橋本百世	新薬レビュー（オピオイド誘発性便秘： ナルテメジン）	平成29年度兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会共済研修会	2017. 8. 19
仁木一順 岡本禎晃 中嶋真一郎 幡野舞 宮武佳菜枝 金井菜穂子 加治佐直子 上島悦子	緩和ケア病棟入院中のがん患者における嗅覚、味覚、不安・抑うつ の経過と関連例についての臨床試験	第30回日本サイコオンコロジー学会総会・第23回日本臨床死生学会総会合同大会	2017. 10. 14-15
金井菜穂子 西山菜々子 岡本禎晃 宮武佳菜枝 橋野陽子 水谷伸	知的障害を伴う中年期独身乳がん患者への心理的サポート	第30回日本サイコオンコロジー学会総会・第23回日本臨床死生学会総会合同大会	2017. 10. 14-15
中川左理 岡本禎晃	緩和ケアチーム活動のアウトカム評価～ 薬剤師の提案・介入に関する現状調査～	第2回関西緩和医療研究会	2017. 11. 12
仁木一順	終末期医療における新しいケア体系と治療法の開発に向けたテクノロジーの応用	第37回医療情報学連合大会	2017. 11. 23
橋本百世	新薬レビュー（ナルサス錠、ナルラピド錠 麻薬）	平成29年度兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会共済研修会	2018. 1. 13
橋本百世	後発品の病棟勉強会について	第18回兵庫県薬剤師会 実務研究発表会	2018. 3. 4

臨床検査科 学会発表等

発表者	演 題	学 会 名	月 日
上田 一仁	～服薬指導ステップアップ～「これで納得！臨床検査値の読み方・考え方」	三田市薬剤師会研究会	2017. 7. 27
上田 一仁	臨床検査値の読み方・考え方	関西医療薬学研究会	2017. 10. 22
杉山 昌晃	検査室の収支管理 ～どうしたらいいの？～	滋賀県臨床検査技師会	2018. 3. 4
杉山 昌晃	標準化サーベイ「血液項目」報告	大阪府臨床検査技師会 平成29年度臨床検査データ 標準化推進事業報告会	2018. 3. 10
杉山 昌晃	血液学検査（自動血球分析項目）報告・血液形態実技	大阪府医師会 平成29年度（第45回）臨床 検査精度管理調査報告会	2018. 3. 17
上田 一仁	臨床検査精度管理調査報告「輸血・血液形態セミナー」実技指導	大阪府医師会 平成29年度（第45回）臨床 検査精度管理調査報告会	2018. 3. 17

栄養管理室 学会発表等

発表者	演 題	学 会 名	月 日
澤田かおる	2型糖尿病患者の体成分の傾向	日本糖尿病学会	2017. 5. 29
澤田かおる	緩和ケア病棟における栄養ケア	日本病態栄養学会	2018. 1. 30

栄養管理室 院外活動等

発表者	演 題	講 座 名	月 日
加隈愛子	嚥下栄養外来	西兵庫言語・嚥下・栄養研究会	2017. 7. 29
澤田かおる	病院栄養士の仕事	兵庫県立西宮今津高等学校	2017. 10. 29
澤田かおる	臨床栄養実習	神戸学院大学	2017. 11. 29

栄養管理室 院内研修会

発表者	演 題	講 座 名	月 日
澤田かおる	糖尿病のおさらい	糖尿病療養講座	2017. 6. 29
澤田かおる	糖尿病食品交換表を中心に	糖尿病教室	2017. 5. 29
加隈愛子	楽しく外食!間食!	糖尿病教室	2017. 9. 29
澤田かおる	早めの準備・・・年末年始の食事工夫	糖尿病教室	2017. 10. 29
加隈愛子	シックデイ	糖尿病教室	2017. 12. 29

発表者	演題	講座名	月日
澤田かおる 加隈愛子	糖尿病食体験会	糖尿病患者会 あしや会	2017. 11. 29
澤田かおる 加隈愛子	おやつを楽しむ会	糖尿病患者会 あしや会	2018. 2. 28

リハビリテーション科 学会発表

発表者	演題	学会名	月日
Nishiyama N., Okamura H.	What is the factor of continuing rehabilitation until dying phase?	15th World Congress of the European Association for Palliative Care	2017. 5. 18-20
今井教仁 杉下周平 小嶋和絵 片岡政子 竹田晃	在宅嚥下障害患者における骨格筋量と嚥下機能の関連	第18回日本言語聴覚学会	2017. 6. 23-24
今井教仁 福永真哉 杉下周平 片岡政子 竹田晃	嚥下造影を用いた加齢による嚥下機能の変化の検討	第18回日本言語聴覚学会	2017. 6. 23-24
今井教仁	胃瘻造設後に一部経口摂取可能となった進行性核上性麻痺の一例	第23回西兵庫言語嚥下栄養研究会	2017. 7. 21
今井教仁 福永真哉 杉下周平 片岡政子 竹田晃	高齢嚥下障害患者における舌の厚みと嚥下機能の関連	第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学術大会	2017. 9. 15-16
杉下周平 福永真哉 今井教仁 藤原隆博 古西隆之 福島邦博 松井利浩	加齢による嚥下動態の変化：嚥下造影定量解析の結果から	第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学術大会	2017. 9. 15-16
西山菜々子 松田良信 加治佐直子 林千代美	リハビリテーションの実施時間を定時化することは進行がん入院患者にとって益となるか	第21回日本緩和医療学会学術大会	2017. 11. 12
Nishiyama N.	緩和ケアが主体となる進行・終末期がん患者が表出する希望と実施したリハビリテーションプログラムについての調査	第50回日本作業療法学会	2017. 11. 18-19
川村直生	脳卒中後反張膝により発症前と比較し退院後活動量低下に対し装具を処方した症例	平成29年度 阪神南（西宮・芦屋）ブロック新人発表会	2018. 2. 18

リハビリテーション科 院外講演会等

発表者	演 題	講 座 名	月 日
田村宏 紺屋浩之	サルコペニアを合併した2型糖尿病患者における当院の取り組み～理学療法士が推奨する運動療法の視点から～	兵庫県糖尿病フォーラム	2017. 8. 20
田村宏	寝たきりにならないためにこころがけること	夙川公民館活動推進委員会	2017. 9. 16

放射線科 学会発表

発表者	演 題	学 会 名	月 日
後藤博 阪本正行 松月久穂 木下真由美 長瀬大希 前田桃世	FPD搭載X線TV透視撮影装置の長尺システムの検討	第29回兵庫県放射線技師会 学術大会	2017. 11. 19

看護局 学会発表

発表者	演 題	学 会 名	月 日
江頭佐都美	緩和ケア病棟における薬剤師の役割～看護師の立場から～	第11回緩和医療薬学会	2017. 6. 3-4
橋野陽子	遺族会開催がスタッフに与える影響～初めての遺族会を経験して～	日本緩和医療学会学術大会	2017. 6. 23-24
後藤愛 平野有紀子 西川美穂 神谷裕子 加治佐直子 嵯峨山育子 金井菜穂子	遺族への手紙について今後の取り組み方を考える	兵庫県看護協会看護実践研究会	2017. 11. 25
阪本純子	難治性瘻孔治癒した症例～多職種のかかわり～	第47回日本創傷治癒学会	2017. 11. 27-28
阪本純子	地域の介護士が抱えるストーマ装具交換の問題と課題～地域研修会を開催して～	日本医療マネジメント学会 第12回兵庫支部学術集会	2018. 2. 18

看護局 研究会および院外講演会

発表者	演 題	講 座 名	月 日
阪本純子	ストーマ装具交換の基礎	平成29年度第1回市立芦屋病院専門・認定看護師研修会	2017. 6. 15
陰山美穂子	スタッフナースが取り組む退院支援①②	兵庫県看護協会教育研修	2017. 7. 6 2017. 10. 21
木村史絵	夏場に多い心不全！～心不全になりにくい生活習慣～	地域医療セミナー	2017. 7. 9

発表者	演題	講座名	月日
荒井菜摘 前木場愛莉	看護師の仕事	AUSS仕事ナビ	2017. 7. 14
阪本純子	ストーマケア、創傷管理、失禁の基礎知識について	第39回関西ストーマケア講習会	2017. 11. 3-5
津久茂康予	認知症ケア加算に関する話題	第9回認知症疾患医療センター研修会	2018. 2. 22
尾高朋巳	自分たちのなりたい憧れの職業について	キャリア開発教育実践授業	2018. 3. 2
川口冴子 吉田由美子	「抗がん剤治療を受ける高齢がん患者の特徴とケア」「抗がん剤治療を受けながら在宅・施設で療養している患者の事例紹介」	平成29年度第3回市立芦屋病院専門・認定看護師研修会	2018. 3. 15
津久茂康予	認知症者の理解・4大疾患の原因と特徴	芦屋市介護サービス事業者連絡会	2018. 3. 27

看護科 院内研究発表

発表者	演題	講座名	月日
中西みづき	クリニカルパス使用状況の実態調査～アウトカム入力の充実を目指して～	院内研究発表会	2018. 2. 23
盛本彩花	癌告知により危機的状況に陥った患者が、緩和ケア病棟を選択するに至るまでの心理過程と危機回避の要因について～アギレラの危機解決モデルを用いて～		
柴田千晴	終末期がん患者を支えるケア～患者の苦しみに焦点を当てて～		
吉村祥平 利田なつみ 潮香菜 志水あやか 松本里美	残業削減について		
松下舞 高見建一郎 栗島朝香 前川友世 河村絵理	針刺しゼロへの挑戦		
酒井章江	終末期がん患者の対する危機介入～アギレラの危機問題解決モデルを用いて～		
山端早紀	抗癌剤治療中、左半身麻痺となった患者の障害受容過程と在宅復帰を目指すまでを支える看護を考える～コーンの危機・障害受容モデルを用いて		
高木毬衣	疼痛を抱えているA氏とのコミュニケーションについて		

発 表 者	演 題	講 座 名	月 日
有田麻衣子	根治できないがんと告知された患者の受容過程とその看護について～ロバート・バックマンの死のプロセス3段階モデルを用いて振り返る～	院内研究発表会	2018. 3. 23

平成29年度 実習受入実績

受入科等	学校等	人数	実習期間
診療局	兵庫医科大学	11名	30年2月13日～2月23日 30年2月26日～3月9日 30年3月12日～3月23日
	兵庫医科大学病院	16名	4月1日～5月31日 4月1日～7月31日 5月1日～6月30日 6月1日～6月30日 8月1日～9月30日 8月1日～11月30日 10月1日～11月30日 11月1日～11月30日 12月1日～30年1月31日 30年1月1日～2月28日 30年2月1日～3月31日 30年3月1日～3月31日
	大阪大学	3名	7月18日～7月28日 11月13日～11月24日
	甲南女子大学（ペインクリニック内科見学）	3名	11月1日, 8日, 15日
看護局	西宮市医師会看護専門学校	22名	7月11日～7月28日 5月9日～9月21日
	神戸看護専門学校	34名	7月11日～30年3月31日
	兵庫大学	32名	8月22日～8月23日 10月30日～11月10日 11月27日～12月8日 30年2月14日～2月23日 30年2月27日～3月8日
薬剤科	神戸学院大学	1名	4月12日～7月2日
	大阪薬科大学	1名	4月12日～7月2日
	京都薬科大学	1名	30年1月9日～3月26日
	神戸薬科大学	2名	4月12日～7月2日 9月25日～12月10日
	神戸薬科大学（早期体験）	5名	5月30日
	武庫川女子大学	4名	7月3日～9月24日 9月25日～12月10日 30年1月9日～3月26日
	武庫川女子大学（早期体験）	4名	6月13日
臨床検査科	大阪医療技術学園専門学校	2名	6月20日～9月7日
	神戸常盤大学	1名	30年1月11日～3月7日
	神戸学院大学	1名	8月1日～8月15日
リハビリテーション科	宝塚医療大学	2名	5月8日～6月18日 7月3日～8月27日
	兵庫医療大学	1名	30年1月8日～30年3月3日
栄養管理室	園田学園女子大学	2名	5月8日～5月19日
	神戸松蔭女子学院大学	1名	5月22日～6月2日
	武庫川女子大学	4名	6月5日～6月23日 6月26日～7月14日
	神戸女子大学	4名	8月7日～8月18日 8月21日～9月1日 9月4日～9月15日
	神戸学院大学	2名	8月21日～9月1日 9月4日～9月15日
	千里金蘭大学	2名	30年1月29日～2月9日
救急	芦屋市消防本部	6名	30年2月22日, 23日
(トライやるウィーク)	精道中学校	3名	5月29日～6月2日
	山手中学校	3名	6月5日～6月9日
	潮見中学校	3名	5月22日～5月26日
	芦屋国際中等教育学校	3名	11月6日～11月10日